婦人衛生雜誌

明治四十五年四月二十日發行

第二百六十九號

明治二十二年二月二十八日內務省許可（廿日發行）

婦人衛生雜誌

第二百六十九號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

雜報

廣告

私立大日本婦人衞生會

五月例會通知

來る五月四日(第一土曜日)午後一時半より麴町區四番町三輪田高等女學校に於て例會相開き左の講話有之候に付き御知友御誘引御來會被下候也

國民體育の改良附婦人の責任

醫學博士　土肥慶藏君

明治四十五年四月

私立大日本婦人衞生會

前髪心の覇王　美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺	中	弐匁四分
壹尺弐寸	大	三匁四分
壹尺五寸	極大	五匁五分



講演

塵埃と掃除

醫學博士　遠山椿吉

唯今幹事の莊司君から申上げた通り、私が先年來掃除のことに就て注意致し、眞空掃除機械のことを世の中に紹介した折がございましたので、莊司君から眞空掃除機械の實物を運轉しながら說明をして呉れよと云ふ御依賴でございましたが、今日は電力の都合上機械の運轉を致さぬことゝなりまして、機械の說明だけでは少し物足らぬやうでございまするから、寧ろ塵埃と掃除と云ふことに就て御話を申上げやうと思ひます。

で初めに塵埃と云ふことに就て申上げまするが、一體塵埃と云ふものと塵芥と申すものとは別れて居りまするが、先づ塵芥と云ふことはアラゴミ卽ち大ゴミのことでありまして、箒木で浚ひ片付けることの出來るもので眼に見える大きなものを言做して居ります。更に又細かいものになると、それを塵埃と申しまして塵、埃又は微塵と云ふて居ります、是から申しますのは大塵アラゴミを申上ぐるのでなくして、所謂塵埃と云ふ細かいものを申上げやうと思ふのであります。

此細かい塵埃は何う云ふ狀態であるかと申しますると、甚だ細かくして空氣中殊に室內の空氣中に混淆して、風に從つて飛揚する狀態のものを申すのであります、それは學問の方で凡そ三種に分けてございますので、其第一と申しまするのは、肉眼で見ゆる程のものを申し、卽ち此室の上でも箒木で撫でますと、直に舞上つて眼で見ゆるところのものを申しま

す、第二の方は特に光線塵埃と申す名が付て居りまして光のない暗い處では、吾々の眼に觸れぬ程の細かいものであります。御案内の如く電車に乗りまして偶々其電車内に光線が映じますと、著しく電車内の塵埃があることが、眼に見える、あれを卽ち日光塵埃と申すのでございます、第三のものになると、日光が映じても到底吾々の肉眼では見えない程の細かいものである、是は御案内の通り黴菌(或は細菌)及烟の成分などで、肉眼では見えないところの極く細かいものを申します。

次に塵埃の分量のことを申上げます、是を一口に申しますると、家の内と家の外に於ては非常に違ひます、啻に塵埃ばかりではございませぬ、空氣に觸れて例へば御案内の炭酸瓦斯や、其他有害なる瓦斯類などは室内と室外とは大變な違ひがありまして、家の外は隨分混雜して居りましても甚しく汚れる程の分量の瓦斯はありませぬが、室の内で、偶々有害瓦斯が立ちますると甚だ危險な事になります。別けて塵埃になると室の内には非常に多く、外の空氣に含まれて居る塵埃の分量は比較的少ないと云ふことを申すことが出來ます。

次に雨風の關係に依つて異るので、此頃のやうに日々晴天が打續きまして乾いて居る際には、家の内外共に氣中の塵埃の分量は多くなる、雨が降りますと家の内外を問はず何處でも塵埃の分量は少ないものであります。其分量を一々申しましても餘り興味はございませぬけれども一體斯んなものだと云ふ一端だけを申上げますので、外の方の空氣から申すと外は一體に少ないので、部屋の外、街の内の空氣の而も晴天打續きまして、乾燥して居る場合に於ては、其分量は一立方米突每に、卽ち三尺三寸四方の積中に平均二十三ミリグラムの塵埃を有して居る、雨後には六ミリグラム、野外卽ち郊外で街でない所でございましては三乃至四ミリグラムで、雨が降りますと、〇・二五になるので極めて少ないのである。

次に室内ですが此今日お話申上げるところの必要な

る主眼の目的は室内のでありまして、貴女方が一家に住つて居る際に掃除なさる時は、室外ではございませぬので、目的物は室内でございますから此方に重く御心をお用ゐを願ひたいのです。

部屋の内では種々な場合に依つて非常な違ひがありますが、最も烈しく塵の立つ製造場などでありますと、一立方米突に、百四十ミリグラム又極めて綺麗な所であつて、御飯をたべる間或は子供の居る部屋等で清潔な家であると一・六ミリグラムであります、之は皆西洋人の試験したので西洋室の分でります。此處に申上げました室の内の塵埃の分量を此硝子の管の中に入れてあります皆一立方メートル中の分量であります。

唯今は分量を申しましたが今度は性質であります、此塵埃と云ふものは何う云ふ性質のものであるかと申しますと、是は場所に依て非常に性質が違ひますが普通の家庭で申しますると何方の家庭の塵埃を取つて調べて見ましても大抵大同小異ですが、いろいろな工場の如きになりますと製造品に依て非常に塵の性質が違ふ。唯今は普通の家庭に於ける場合を申上げるのですが、先づ塵埃の中に凡そ百分中の二五即ち四分の一は有機物でありまして、其他の無機物が百分中七五、であります、吾々の健康に關係を有つものは、有機無機に拘はらず塵埃の量が多くなりますと種々身體に病氣を起すので、先づ第一に眼血膜炎などは此塵埃の爲に起るのであります、併し貴女方のやうな清潔な御内の方は御經驗はないかも知れませぬ。吾々が遠く船に乗ります時に石炭の目に見えん程の細かい塵埃が眼に入つてそれは忽ち眼を悪くする、深川邊などは例の製造所が澤山ありますから、さう云ふ場合が澤山ある。次に塵の爲めに呼吸機の病氣即ち喉の加答兒、氣管枝加答兒などを起す、其外塵埃の性質に依りては石の粉末を長い間吸ひますると、例の醫者の方の解剖科で申します、石肺と云ふ病氣を惹起すまでに到るのである、石炭や炭の粉末を吸入しますると醫學の言葉で遂に炭肺

など申します病を惹起すのであります
其外塵埃に特種の有害なる性質のものがありまするとそれが爲に中毒が起る、斯樣に塵埃の害を數へますると數限りがありませぬが、先づそれ位に止めます。

以上は有機物でも無機物でも全體の塵埃に付て申したのですが、其塵埃に我々が特に注意を要するのは有機成分で、其有機成分の中に更に特に注意を要するもの卽ち怖るべきものは黴菌である、併し此黴菌は害あるものばかりではありませぬ、恰度黴菌は草木鳥獸と同じで鳥獸必ずしも怖るべきでなく草木に悉く害ではありませぬが、其黴菌の中には往々有害なるものがあるので、それに注意することが必要なのであります。それでありますからして今日まで學者の塵埃を取調べましたところのものは多くは塵埃の中の黴菌であります、其黴菌を原として調査を致しますので、是から其黴菌のことを少し申して見ます。

サテ空氣中の塵埃の中に混淆して居る黴菌の數は何の位あるかと申しますと、西洋人の調べましたところに據ると、大抵一立方米突に百乃至千・斯う云ふ數であります、日本の學者で吾々も取調べましたがなか／＼日本にはさうは申されぬ、是は決して不思議はございませぬ、西洋の市街は大概石などを敷詰めてあるので、日本の街とは非常に趣が異つて居りまして、御案内の如く日本の道路は土面が暴露して居りますから、少し乾燥致しますと風に連れて直ぐに塵埃が舞上る、東京の道路でさへ御覧の通りでありますから、東京以外には殆んど土面が露はれて居ない土地は無い位です、私の知つて居る範圍で唯長崎は往來に石を敷いた所が大分ございます、それでありますからして無論乾燥すれば塵埃になつて舞上り、空中の黴菌も殖えて來るのであります。此事に就て澁谷と云ふ人の調べましたのがあります、が先づ東京の中でも往來の頻繁なる銀座とか、小川町とか云ふやうな殊に盛んである所の往來の空氣一

立方メートル中の黴菌の數は一萬一千、多い所になると三萬七千位である、さうしますると西洋の一般の百乃至千と云ふ數に十數倍して居る、殊に下谷の萬年町の如き一立方米突に三十萬です、是は往來の方でありますが、室内の空氣を研究を致すと云ふと、丁度四十年の三月に我々が某學校の空氣を調査をしたのです、之を說明する前に同校の構造から申さねばなりませぬが、大體申上げまするど各室が十四ばかりありまして、其部屋は悉く椅子腰掛で疊は柔道をする部屋だけしかない、其柔術の室だけ取除くと致しますと、室の形から申しても極めて塵埃の出惡くい所謂清潔を保つに易いところの造構になつで居る、それで次の樣な成績を得て居ります、尤も授業時間に依り或は風の有無或は部屋の大小等に依ていろ／＼違ひますが、極く多いのと少ないのとを申上げたらお解りと思ひます、極く黴菌の多い部屋は、一立方米突の空氣中黴菌の數が一萬七千九百二十で、極く少ない所は三千百七十と云ふ數であります、是れで以て見ましても我々日本の室の內の空氣中の黴菌と云ふものは非常に多いと云ふことは御推察が出來やうと思ひます。唯今御覽に入れました通り、彼の塵埃の中の二割五分だけが有機物で其有機物の一部分が黴菌でありまして其數が右の通りにある譯けです。

以上は塵埃と云ふものの、數量性質と云ふことを申上げましたので、是れからは掃除の事を申上げるのであります。

一體掃除と云ふことは何う云ふことであるかと申しまするど、是は隨分八ケましくも申されますが、詰り吾々の體の周圍から無用有害の物質を取除のが掃除の目的である、然るに日本ばかりではございませぬが、西洋各國共從來掃除をするに、如何なる方法を執つて來たかと云ふと申合せたやうに箒木を用ゐ、釆配を用ゐる、場合に依ると竹の棒で叩き更に又雜巾を用ゐる方法に過ぎぬのである。學者が學問の見地から此掃除法に就ていろ／＼研究をされて居

る人もあるが、コルチツトと云ふ人は例の有名な肺結核の豫防の研究者ですが、肺結核なるものは所謂塵埃から來るのであるから、深く掃除の事に注意せられた、此人の申しまする言に依ると掃除は乾式より濕式の方が良いと云ふことで、此處ではアラゴミのことは申しませぬ、總て細かい微塵を掃除するに乾式を用ゆることは全く不適當である、即ち采配或は箒木を以てすることは殆んど效を奏さない、此微塵埃を除くには絶對に濕式でなければならぬ、即ち雜巾掛で掃除すると云ふやうに心を用ゐられて、研究の結果世間に向つて濕式で掃除をすることを盛に唱へられ、それで肺病を豫防するに於て此道を以て掃除せんければ、則ち掃除の法に效がないとまで申されて居ります。現に疊でも采配或は箒木を以て掃くと一時は塵埃がなくなつたやうでも其掃除の爲めに塵埃が飛散し舞上つたところのものが再び疊の上なり机の上なり悉く沈澱して來ます、此處で一言申して置きたいのは掃除の際に貴女方が仕事をして居たり或は往來又は立ち居した所を直に拭くと云ふことは效が少ないので、殊に病室等になると愈々そふです掃除の前に暫くの間戸を締めて、空氣の搖動を防いで、即ち風を入れないやうに靜にして、三十分以上經つて始て之を濕式を以て塵埃を除くべきである、さうすると空氣中に舞上つたところの塵埃が此時間の間に悉く沈澱する、さうなると微菌は固より其他の塵埃は皆空氣より比重が重い性質のものであるから、一旦舞上つても戸を締めて空氣の搖動を防いで置くと悉く沈む、沈んだところで濕式の法を以て拭去ると空中の塵埃を除くことが出來る、是が最良の手段でありまして、殊に病室等に於ては此點に注意を要する。

それで從來の仕方にはコルチツト氏が盛に主唱されました如くに濕式には私も異論を有つて居りませぬが、併し此濕式を實行することは物に依て難かしい、日本でありますと襖又は額でも其他細かい彫刻をしてある額縁など更に掛物などに至つては愈々雜

巾を掛けると云ふことは困難のことです。此頃は能く食麵麭を用ゐることがありますが此食麵麭は西洋人が額などを拭ふのに用ゐるので、麵麭をナイフで斷ると新しい切目が出る、それを以て絨氈でも襖でも屛風の緣でも、場合に依て机掛けのやうな物でも拭くことが出來る吾々の古い衣服の塵埃などは麵麭を以てすれば淸潔に取れる、又帽子などに塵埃の著いたのも麵麭を以て摩すると塵埃を除くことが出來る、此食麵麭を以て摩する掃除の法と云ふものは先づ理想に近い有效の掃除法に違ひないです。

然らば釆配を用ゐる時分に用ゐず、直ぐに雜巾を用ゐて其上に出來ない所は麵麭を以て摩すれば宜いが併し麵麭は到る所に需用することは六ケしいのみならず、價が高いから、學者が勸めたところで金の無い人は到底出來ないから、一般には行はれない、然らば掃除と云ふことを何故左程心配をする必要あるかと申しまするさ、前にも申上げた通り他の塵埃は差措ても何うあつても根本から掃除を能くして除かねばならぬのは、卽ち傳染病の病毒たる黴菌であります。塵埃の中には第一に肺結核の黴菌がある多くの結核の內で肺病の傳染は實に空氣の塵埃から來ることは明白なことである、肺病の產物は痰である、此痰は一旦乾いて塵埃となつて、空氣に混じてそれを空氣と共に吾々が知らず識らず吸ふさうすると呼吸器の健康である人は特別でありますが、何か其體に缺點があると其處で發病するので、それが卽ち肺結核です、其他塵埃中には場合に依て腸窒扶斯、實布垤利亞、インフルエンザの樣な傳染病は皆塵埃が病氣の媒介をして入つて來るのであります。斯樣な譯ですから根本的に塵埃を除くことを致さなければならぬと云ふことになります、然るに從來行はれて居る掃除の仕方と云ふものは、理想の半ばにも行かぬ極めて幼稚なるものを以て吾々が滿足して居つたのである。

然るに唯今から約十年ばかり前に、英吉利に於て或る一つの機械を發明したと云ふことを聞きました、

其機械は一の眞空を拵へまして、其眞空から管を出して其管の先で掃除をする、管の中が眞空であるから吸ふ力を有つて居つて塵埃を吸つて仕舞ふ、其吸ふ力と云ふものは頗る強くあつて、隨分厚い敷物の樣な品物でも根底からして塵埃を除くことが出來ると云ふ。それから四年ばかり前に、私が西洋に行つて見ますと、豫て記憶に留て忘れられないところの眞空掃除機械と云ふ物を實際に見る事が出來た。現今米國並に歐洲の大建築物、例へば病院、劇場、政廳、勸工場…丁度三越のやうな大きな建物…割烹店、ホテル、製造所、倶樂部などの所謂人の不斷集り居る所に用ゐて居ることを見ましたが、それが悉く現今は更に〳〵普及して居ることは無論の事であらうと思ひます。此機械は非常に大きいのも小さいのもありまして御覧の通り(機械を示す)斯樣な物でございます。之よりはもつと構造の簡易にして日本の烟燈檯位の一尺五寸乃至二尺の丈の物で是を以て踏み、或は手を以て運轉するやうな簡單な機械もあります、其外は例へば瓦斯電氣水力等を用ゐてやるやうな物もあります、又大建築物になりますると一つの建物の内の最下層に機械の据付場があつて、水力を用ゐ或は電氣を用ゐて大機械を運轉し、之より管が部屋〳〵に通して居ること丁度瓦斯管の樣になつて部屋の壁に口が出て居る、平素は塞いで置いて一朝掃除する際には護謨管を此口に箝込んで掃除中の中心の枠で機械を運轉するのであります。其護謨管の口はいろ〳〵適當な口でございまして、其口を以て掃除する場處を撫でますので、彫刻した額縁でも飾りの置物でも總ての物をなでます(護謨管の口を示す)平坦な處や凹凸のある物に用ゐる程の各各口の形の異つた物も種々ありまして、斯樣なブラシのやうな口もあります、之を以て掃除をするのであります。

で是は西洋に御出でになつた方は、無論少くとも衛生上に御心をお用ゐなさる方でありますと、決して醫者に限りませぬ、目撃せられてお歸りになつたお

方があらうと思ひます、今日では殆ど到る所に是が用ゐられて居り前申も通り總ての大建築には備へますので、建築の當時瓦斯管を引くと同じ様に眞空掃除の管を壁の中に仕込むと云ふことです。然るに先年東京に帝國劇場と云ふものが出來ましたが、彼れは最もハイカラーな新式の構造であると云ふ世評である、其當時私は未だ其劇場を見ませんでしたが、其説を聞くに成程立派な建物で、電燈もあり瓦斯もある。夫等のことは遺憾なく備はつて居る、然るに掃除の裝置は何うかと聞いて見て驚きましたのは何にもないです、燈火抔は寧ろ蠟燭でも澤山點ければ明かるくなるが、第一に我々が觀客となつて劇場に參りました場合に、極めて愉快なと云ふ念を與へるには總てが安穩でなければなりませぬ、此愉快なるものは吾々の體に聊も顧慮する所なくして始めて愉快と云ふものが買はれるのである、演劇を觀に往つても斯う云ふ人の群集して居る所に長く居つて、肺病が傳染しやしまいか、或は氣管支加答兒になりはしまいかと云ふやうな不安の念を起させ、偶々咳でも出ると炭酸瓦斯が籠つて居るから何か病氣にでもなりはしまいかと云ふやうな心を起させる、それでは決して愉快でも何でもない、愉快と云ふものは危害を除いて始めて其の上に總ての樂があるので、衞生上一つの缺點もなく不安の憂も無く更にプラス愉快でなければ本當の愉快にはならぬ、又本當の愉快とは申されませぬ、いくら面白い芝居でも不安の念があつては面白くもない、然るに帝國劇場は右のやうな大缺點のある構造であるから私は遠慮もなく時代遲れの建築物であると云ふことを書いても見又唱へもしました、私は學問上に於ては決して遠慮は致しません。是は啻に帝國劇場ばかりではございませぬ、今日大建築物の所謂ハイカラーな數千萬金を投じた建物でも眞空掃除の備へがしてないやうなのは野蠻的建物であると思ふ。畏多くも我皇太子殿下の御宮殿は既に此裝置を御採用になつたと云ふことを承つて居ります、斯樣な模範が宮中から出まし

たことは我々衛生の道に干與はつて居る者の極めて有難いことゝ存ずる次第であります、何うか宮中の御示しの通り必ずしも大規模の物を要するのではありませぬから力相應の物が各方面の各建築物に備へられて何うか吾々の企望を達したいと云ふのが主眼でございます。唯今申上げた通り劇場であるとか、或は議會であるとか、役所であるとか云ふ所には、地下室に大機關を据付て各部屋等に管を通して置けば簡便に掃除が屆くのであります。

西洋の衛生の設備と云ふものは、啻に眞空掃除機械ばかりではございませぬ、例へば伯林の帝國議會の各部屋を見ると、羨ましいほど美術的構造である、唯美しいばかりではございませぬ、衛生の點に於ても實に完備して居るので無論眞空掃除機械は備へてあるのみならず、伯林議會の室內に於ける室氣は濾過したる新鮮の空氣を入換ゆる仕掛になつて此空氣は適度の濕氣を調合し一定の溫度を與へ卽ち空氣を料理して御燗を付けて送つて居るのである、此節は流石に東京市民は水は濾したものを用ゐて居るがまだ空氣は濾さずに塵埃の儘で吸つて居る、彼と此を較ぶると人間の値打に違がある樣に思はれる、此空氣の惡い爲に何時の間にか肺炎とかインフルエンザなどの種々の黴菌に冒されると云ふことは明白である、此空氣の不良なるを直すには今急にと申すことはいかぬが步一步進めて一部分でも新鮮な空氣を吸ふやうに致したならば、東京市民が年に千人死ぬところ八百人なり八百人が七百人なりに減少して行つて、遂に良結果に進めねばならぬと思ひます、衛生上の事を他の一面から言ふと衛生上左樣に贅澤を言ふては終には人間が弱くなつて生な空氣が吸へなくなりはすまいかと心配しますけれども現在其處に危害が見えて居る以上は我々の無智の時代は兎も角今日敎育あり知識有る人が集つて居る以上は其害を取除くと云ふことを心懸けずには居られない、怪物があると云ふことを知つて其怪物を退治しなければ何にもならない、病は天なり命なりなどゝは濟して居

られませぬ、で此傳染病などは、學者の側からは明白に防ぎ得ると保險を附けたにも拘はらず、不良な空氣を吸ひ不良な水を飲むと云ふことは智識ある現代の我々には出來ないです。

それで眞空掃除ですが、是は雜巾掛等に對して何れ程效力があつて何れだけ黴菌を去ることが出來るか、それは今日まで先輩學者が研究して居りまして、それを一々申上げても仕方がありませぬから、私は二三の試驗の結果を申上げるのであります。

一體西洋の部屋と日本の部屋と何方が淸潔であるかと云ふことは一口には申上げられませぬが、西洋でも九尺二間のやうな穢い所もあり又宮殿の如き美しい研き上げた部屋もあるので、日本でも其通りです、であるから大體に於て西洋の部屋と日本の部屋とは五分〳〵であると思ふ、何故かと言へば、西洋の部屋の周圍の構造は日本よりも良くありますけれども窓の大さが極めて小さい、殊に歐羅巴の北の方になると益々窓の數が少く小くなつて居るから空氣の入換はることが日本家より確かに少ない、其點から申すと日本の方が遙に勝つて居る、日本の多くの家の構造は窓が多く且大きいので此處の部屋などは（女子高等職業學校の講堂を指す）別けて學校でありますから窓が愈々多い、日本の家は四方の障子を開放せば外も同然の位である、又牀と椽側は殆ど平坦で卽ち直に掃出す形になつて居る、然るに西洋の部屋には掃出の部屋は一つもない此點に於ては日本の部屋の方が勝つて居る、然るに日本にも缺點がある其缺點は所謂疊です、此疊なるものは實に黴菌と云ふ點から申すと實に困つた品物でありまして、疊の表は、年に一遍若しくは二度位仕換へる場合もあり、部屋に依り家に由つて三年目四年目に表を取換へますが、中の心卽ち牀は殆ど數年或は十數年も同じ牀を使用して居るので其疊の中に塵埃の沈澱する量と云ふものは非常に多くなる、其沈澱する塵埃が步行につれて室內に飛揚して吾々の肺に入つて來る、家屋の構造は西洋に勝つて居りますが、疊と云ふ厄介

な品物を備えて居るから西洋と殆ど同じ結果を來して居ります、疊は如何にも日本數千年來の習慣ですから幾ら吾々が大聲を擧げてお廢しなさいと言つたところで仕方がございませぬ、高木兼寛博士などは疊亡國論と云ふ說を唱へられて、疊があるから國が亡びるとまで言はれて居る、是は體育の養成の點から仰しやるのでせうが、私のは座る方は別問題で、疊其ものが塵埃を吸込んで居て塵埃貯蓄器になつて居るのを言ふのです。私も疊の上に座つて居る一人でありますが此上はドーにかして疊の塵埃を空氣中に飛揚させない工風をしなければなりませぬので大に智惠を搾つて考へまして近頃其模型を拵えましたが、まだ公には致しませぬが、何うか衛生上に適當な物で而も金持ばかりでなく、普通の人でも容易く用ゐられるやうに、今の疊と實際の價に於て大差ないで而も塵埃の溜らない衛生上に適した疊を工風して見たいと云ふことに心配して居りますから之も折を得てお聞に入れる時があらふと存じます。

兎に角疊なるものは塵埃の製造所であり貯藏場である、そこで眞空掃除機械を用ゐた結果を、西洋各國に就て調べて見ましたところが、頗る衛生に適當である、塵埃の掃除と云ふことは殆ど遺憾なく盡してございましたのですから、私は此機械を用ゐて日本の疊を試驗致しましたのでございます、それで疊は御案内の如き構造でありますから、此眞空機械を使ひましても際限なく塵がとれます、然し之を用ゐる數が重なれば段々塵の量が少くなり、黴菌のとれる數も減じて參ります。要するに此試驗は疊が如何に塵を澤山に持つて居るか、又此掃除器械の如何に有力なるか雙方の試驗なのです、一枚の疊の而も隨分使用した舊いものである、それに或る程度の吸引力ある此機械です、此中等の力のある眞空機械を用ゐまして、さうしてそれで疊の面を摩擦すること一遍十遍、二十遍、百遍まで摩つた試驗の成績があります、それは悉く申上げる必要はございませぬが此二三の例を擧げますと、始め此器械を用ゐぬ以前の疊の黴

菌の數即ち三尺六尺一枚の面積の黴菌の數なるものは二百三十億の黴菌を含んで居つたのです、かく黴菌を含んで居つたものを五回摩ると百三十一億に減ずる十回摩つたら百二十二億、二十回目には百〇三億に減じて來る、又塵埃の一立方センチメートル即ち三分三厘方立の塵埃の中の黴菌の數が何れ位であるかと云ふと三百六十六萬二千であります、中にいろ／＼の黴菌の種類があるのであります、又此器械で取つた塵を測りますと、疊を十遍摩つた結果三十瓦容積で五十立方センチメートルの塵埃が取れまして此丈の塵の中の黴菌の數は一億八千三百十二萬と云ふ數が數へられるのです。之を以て觀ると疊と云ふものゝ驚くべき塵埃を含んで居ると云ふことが分るのであります、是から考へて見ると疊の不潔なることも解るのであります。

先づ申上げることは是だけでありまして是から機械を御覧に入れますが茲で有力なる貴婦人方にお願ひを致したいのは、上の好むところ下之に習ふで、何うしても改良と云ふ事は上から起つて來るのです、別て先刻申上げた皇太子殿下の御新殿には此裝置を御採用になつたと云ふことを承つて居りますが、是は國民の御教育上有難いことですに由つて唯今から始めて御建築になり、或は御改築になる際には可成疊を避けるやうに致して戴きたい、若し疊の改良進歩の點に御研究の上、何でも塵埃を除くやうに御注意なさつたならば段々之が國民一般に及ぼして、肺結核、實扶的利亞或はインフルエンザと云ふやうなものゝ黴菌を驅逐撲滅する時が參らふと思ひます吾々微力なる者が一人や二人でなか／＼國民衛生上の大業を成就する事は覺束ないのでありますから、多數の方の助力を願ひたうございます。

此稿を校閲する數月前眞空掃除器械の最も簡便なる手働器の輸入せられたるを見且二三の試驗を施行し、家庭用として最も適當なるを感じたり仍て一言を追加す

（遂　山）

叢談

石炭と石油

醫學士
藥學士　高橋學而

其一、不老不死の藥

大英國の石炭が用ひ盡される日はいつか。つい近年迄此問題は、煉金術、不老不死の藥、乃至は永活機關と同樣に、希望と不安とを以て、世人が解決を望んで居た案件であつた。

可笑しい樣であるが、昔しから大英雄と呼ばれた人、若くは最大の王冠を戴いた人に、不老不死の藥を求めた人が大勢ある。蓋し世上一切の人事が、殆ど思ひのまゝに出來るにつれて、超人事的の事、自然の約束をも蔑ろにする樣な事、即不老不死の妙法が、我手中に修められまじきかと云ふのは、人界の英雄のをり〳〵あくがれた慾望であつた。

生者必滅とは佛陀の敎法にもある。砂漠の北、日(即今の赤道)の南まで征服した漢の武帝も、或は萬里の長城を築き、千里の運河を掘つた秦の始皇も、定まる業には克ち難く、海に藥を求めた方士の船はかへらずして、覇國は空しく土に委し、殘る者は唯秦關を照す漢月のみとなつた。

但見三泉下、金棺葬二寒灰一　李白

人は死なければならぬ。不老不死の藥は必竟得がたい。之が第一の問題に與へられた千古の解決である。

因に申す。始皇の時の方士徐福の墓は、日本の熊野にあるそうです。又その不老不死の藥を取りに來た、東海の蓬萊が島といふのは、即我大日本國の事だそうです。夫から當時の所謂方士は、今の化學者の樣な事を仕て居つた者で、丹を錬り、藥を作つたといふのは、現今の化學實驗と同巧異曲の事だらうと思ひます。

其二、錬金術

不老不死の藥は出來難くて、生ある者は必ず死ぬと云ふ事は、比較的古くから知られた事實である。之と同様に古代の泰西の化學者——半ばは山師的の學者等が頻りに研究を凝らした錬金術、即賤金屬を變じて黄金にする法、若くはもう一歩進んで、泥土を黄金に化せしむる事は、殆ど前世紀まで能否がわからずに居つた。佛國のルイ十一世なども、軍用金の調達に困つて、是非泥土若くは鉛を、黄金に變じ度いと考へて、屢々其研究者を訪問し、又助勢をも與へた程であつた。

當時の錬金術家の考へには、仲々振つた者もある。ある羅馬舊教の僧侶は、黄金即光、光即眞理、眞理即神、神即不老不死、及び萬能と推論して、黄金を造る事、即攝受不捨の光明を見出す事、即知惠の石(永世不滅の眞理)を得る事、即生ながら成佛する事と信じて居つた。のみならず又ある他の僧侶は、逆に光を變じて黄金にして見度いと思ひ付いて、一本の光線を人知れず或寺院の庭へ埋めて、一千年の後に之を堀り出して見よ。さらば黄金に化して居るぢやらう」との遺言を殘した。

此光線の始末は小生も存せぬ。とに角東洋の昔の化學は、重に不老不死の藥を研究し、西洋の化學者は黄金錬成に骨を折つて、併も傍に不老不死の藥にも指を染めた事は明である。

かくの如くにして殆ど二千年に渡つた研究は、凡そ西暦千八百年頃、即今から約百二三十年前に、所謂物質不滅の法則、及び元素保全の法則の發見と共に、其不可能を證明せられたのである。ざつと申せば、「世界は凡そ八十有餘の元素が、種々に離合して出來た物體から成つて、たとへ如何なる大事件が世の中に起きても、どんな不可思議な現象が行はれても、一元素は決して他の元素には變らない。元素は最單純な物質で、又世間一切の事物の根源たる者である。一元素と他元素と結び付いて、複雑な物體を作る事は常に行はれる。之が世上に實在する多數の物

體である、併し元素が尚單純な者になり、又は一元素が他元素に變る事は、神の世にはいざ知らず、人界には決して見聞する事が出來ぬ。純粹の金屬、例へば金銀鉛等は凡て斯樣な元素である。昔し釋迦の一指のゆびさした時、無量劫の恒河砂が盡く黃金に化したと云ふのは、畢竟虛妄の方便に過ぎぬ。即鍊金術の問題も亦近代の學術によつて否と答へられたのである。

其三、永活機關

人間は蟲の好い事許り考へる。泥を黃金に仕樣と企てた人類は、同時に又モビル、ペルペツム、即永活機關を作らうと考へた。永活機關と申すのは少しも傍から原動力を仰がずに、獨り手に永久に働いて、又永久に仕事をするといふ調法至極な機械である。例へば仰いで天を見ると、日月星辰は永久に運轉して居る、其傍らに種々の仕事をする。たとへば宇宙を照す、又吾人を溫める。けれ共斯樣な仕事をした爲に、どれ程の變化を蒙つたとも見えない。いでや人間界にも同樣な者、即永活機關を作つて見やうといふのが、古への學者の問題であつた。

二千年の努力が空しく過ぎて、此處でも人間は其不可能を悟る以外の結果を修め得なかつた。之が所謂エネルギー不滅の法則である。

エネルギー(即仕事)の不滅則も、其大體を述べますと、「凡そ仕事は原動力無しには、決して出來ぬ。生じた仕事の量と原動力、即、水力電氣力、若くは石炭、石油等の火力とは常に比例する。原動力が無くなれば從つて仕事も出來なくなる。太陽や星々の光熱も、決して不滅、無限な者では無くして、年々歳歳、月々、日々に、次第に其量が減じく行く。即永活機關は絕對的に作る事が出來ぬ」。之は今から凡そ七十年前頃に、明かに認知せられた物理學上の法則である。

尙樣に、人類に與へられた多くの大問題は凡て不可能と云ふ結論に到達した。鍊金術者、若くは二千年來の機械學者の、無限の骨折は殆ど徒勞に屬した樣

であつた。併し勞苦は無にはならぬ。仕事は不滅である。錬金術者の骨折は、遂に元素保全、物質不滅の大法則を發見し、永活機關作成の不可能は、却てエネルギー不滅の大法則に到達して、各々現代の化學、若くは物理學の、理論の基礎を定めたのみでなく、其過去二千年の徒勞の間に、殆千萬の事實と、理論とを發見して、化學及び物理學の大體の骨組を形造つた。

之等の歴史を述べると隨分面白いが、要のない事は良い加減にしておいて、彌々本文の石炭の御話に移りませう。

其四、石炭の實在量

現代の原動力は其大部分を石炭の火力から取る。之に比しては水力電氣などは迚も較べ者にならぬ。故に若し石炭が無くなつた時、即地球上にあらゆる石炭を人間が用ひ盡くした時は、世上の一切の工業は殆ど休止しなければならぬ。從つて人間は衣物も著れず、藥も飲めず、汽車汽船も動かず、殆ど生活の利便の大部分を失はなければならぬ。即石炭は地球上の何の國に産するか、又抑々何程まで存在量があるかば、極めて大切な問題である。

石炭は地球表面の殆どゝこにでも存在して居る。石炭の主要な産地と其産額とを擧げて見ますと。

明治二十三年。

英國	一億八千五百萬噸	四二%
獨逸	七千萬噸	一九%
(歐羅巴全部	三億三千九百萬噸)	
合衆國	一億三千三百萬噸	二九%
亞細亞	八百萬噸	二%
(內日本	二百萬噸)	
世界總産額	四億八千六百萬噸	

之が明治四十年頃になりますと。

英國	二億五千萬噸	二七%
獨逸	一億六千萬噸	一七%
米國	三億九千萬噸	四二%
其他	一億二千萬噸	一四%

世界總産額　九億三千萬噸　一〇〇%

卽ち各國、並びに世界全體に於ける石炭の需用と産額とは、非常の勢を以て增加して行く、或學者の如きは石炭需用の增加の度に依つて、其國の文明の進步の速度を卜するに足ると、述べてをります。

以上の外まだ未開の國、例へば支那とか、亞弗利加の內部とか、南米の大深林の中などには、其地下に莫大の石炭層があるかも知れぬ、多分あるに違いなからうと思ふ。併し之は御預りと致して、又米國で盛んに石炭の出る樣になつたのも比較的近來の事で、從前は歐洲の工業界は殆ど其燃料――卽　原動力を大英國から仰いで居つた。そうして大英國の石炭は殆ど無盡藏と稱せられ、其燃えつきる時を知るさへも、人智には大なる不可解事と思はれて居つた。ある有名な生理學者は、『人智が神の境涯に達した時、吾人は各人頭髮の數を居ながらにして悟る如く、又大英國の石炭のつきる時期を知るぢやらう』と迄述べて居る。

此問題も亦近來に略解決せられた。が是も前の三問題と同じ樣に、人類の智能、若くは運命に關して、悲しむべき豫言を齎らしたに過ぎぬ。

其五　人類の滅亡

或學者の計算に依ると、現在の勢で石炭の需用が增して行くならば、大英國の炭田は、其最廣大な者までも約二百五十年後には掘盡くされて什舞ふと云ふ。又他の或化學者の說に據れば、英吉利の石炭は將來百七十五年位でつき、又、全世界の石炭は凡そ今後三四百年內外位にして、全く煙に化了するそうだ。

其結果はどうなるだらう。

三四百年の曉には、吾人は人工的に殆ど全く熱を作る事が出來ぬ。――石炭以外の燃料、例へば木材、石油などに因つて得らるゝ熱量は、石炭に因る者に比して殆ど零と云つても良い。のみならず之等の燃料も、亦年一年と著しく減じて行く、世界の大深林の次第に減少する有樣は、吾人の心膽に冷水を浴び

せ掛ける。(深林の方の事は又他の機會に申上げませう。)――兎に角年の暁には、あらゆる工業はやみ、あらゆる運輸交通は止み、之等が相加はり待つて、農業も工業も現代の幾十分の一に沈睡する。人類の幸福は殆ど皆無となる。此時に文明人種の最大部分は殆ど亡びなければならぬ。生涯上の需用は大部分供給せられなくなる。

此の如きは痛切な豫言である。併も隨分確實な豫言である。又目前にさし迫つた運命の預言である。今から何とか之に應ずる方法を講じて置かなければ、悽慘な運命は目下に來る。到底今では、人と人と、若くは國と國と、乃至は人種と人種とが、互に、不道德を行ひ交はし、互に他をいぢめ合つて居る時期でない、共に與に助け合つて、他日石炭の代りたるべき原動力を研究し、若し夫が到底不可能の事と極つても、互に助け、互に補つて、寸時のたまゆらをも延ばすべき時代であらう。學術上の見地、殊に唯石炭の實在量の研究からも、不德義の害毒である事は明々白々である。

滅亡をのがれる見込は全くないでもない。第一は學者の計算が間違つて居て、石炭の實在量が夫れよりも遙に多いといふ見込である。之は或はそうかも知れぬ。殊に支那、亞弗利加、南亞米利加等の炭量は、その計算中に入れてない樣である。又海底の地の下にも隨分澤山あるちやらう。旁々石炭の壽命は、或は尚數百年乃至は千年、二千年に渉るかも知れぬ。併し文明が進むにつれ、人間が蕃殖するにつれて、石炭の需要も殖え、窮竟は必ず其盡きる時期が來る事を覺悟せねばならぬ、第二は、他の原動力を利用する事である。非常に宏大な原動力で、現に其利用法を知らぬ計りに、人類の役に立たずに居る者も澤山ある。例令ば、太陽の熱である、之が毎日々々、地球上に來る量は限りなく大きい。又は上げ潮引き汐の力である、或は暴風、暴雨の力である。若し、之等の内の一つの、其若干%でも利用する法を案出し得たならば、石炭の無くなる位は毫髮も恐るゝに

足らぬ。

其六、ラウチム

第三は他の原動力を發見する事である。ラムセイ氏(現代英國の大化學者)はラヂウムの如きは之に近い者だと云ふて居る。ラヂウムは御存じの化學上の新元素で、然も石炭、若くは火藥などに比して、甚だ澤山の力(化學的エネルギー)を具へた者である。其一匁の力は大英國の艦體全部(凡そ四百萬噸即ち我十億貫目)を、アルプス山の頂に擧けて、遙に餘りがあると云ふ。アルプス山は歐洲の最高の山で、その高さは我富士山の約一倍半ほど、即 直上凡そ一里半斗りある。唯ラヂウムが餘り澤山に地球上に無いらしい事が惜むべきである。

ラムセイ氏は特別の化學上の研究から、ラヂウムが質に新原動力として有望な斗りでなく、之に依つて泥土を黃金に變ずる事も出來れば、或は不老不死の藥、若くは智惠の石を造る事も出來やうとまで想像して居られる。即ち元素保全の法則も、或は生者必滅の敎理も、必ずしも絶對の眞では無いかも知らんと考へて居られる。

ラムセイ氏の考の當否は兎に角、人智と云ふ者は、之程まで果敢ない者で、今日絶對の眞と認めた者も、明日はうそとならぬもと限らぬ。か樣な實例は學術上いやになる程澤山にある。一例を申すと、古人は天が動いて、地が靜止して居ると考へた。之程確な眞理は類が少ないと思つて居つた。夫れが現今では——天體が靜止して地球が運行するのを眞とする樣になつた。

こう考へると、エネルギー不滅則も或はうそかも知れぬ。永活機關は或は實に造り得るのもか知れぬ。そうすれば第四の人類滅亡の預防策として、此機關の發明を擧げる事もできる。

人智が絶對の眞で無い事は、上に申した通りですがその中では、生者必滅とか、物質不滅とか、エネルギー不滅とかは、現今では最確實な者である事は序に一言致しておきます。

又物質不滅の法則と、元素不滅の法則とは少しくちがひ、又之等も、エネルギー不滅則も、前に申した丈では尙不完全である事も申添へて置きます。

日本の石炭量の事は後に申す、人類滅亡に關する各方面の預言、其に關する人間の覺語、及び日本國民としての吾人の覺悟も、亦折があつたら御耳に入れませう。

神經性頭痛

安積梟軒

俗に神經性の頭痛、所謂頭痛持ちの其の頭痛と云ふものは、性質に於て將た度に於て非常に差異のある種々の病狀を一緒くたにして稱するのである。その共通の點は、頭の何處かに一種の疼痛がある、或は痛いやうな感じがあると云ふ事であるが、その痛の發する部位、理由、種類、程度さては其の遠因、近因など〻詮索をして來ると、非常に種々の性質のものである。そも〳〵此の頭痛と云ふ感じは何に因て起るか、何處に起るかと云へば、その本元は頭蓋の外側の軟部、即ち頭の皮膚や筋肉にあることもあれば、頭蓋の骨膜又は頭蓋骨そのものにあることもあり、或は腦髓を被ふて居る所の膜、その續きの腦髓內に入込むで居る部分、特に腦髓腔を被ふて居る部分にあることもあり、時としては結締織や血管の通じて居る神經の塊、腦髓の所々にあることもある。此等の種々の部分に起る故障に就て取調べた所で、これを一定の目安に依て纏めて見ると、特に頻繁にして又實地上重要なる頭痛の正體が略ぼ相はれて來る。それは何う云ふ事かと云ふに、先づこれは血液分配の不規則に基くものと思はれる。即ち頭の一部分に偏して血が集まる(充血)とか或は反對に一部に血液が缺乏する(貧血)、殊に頭蓋腔の內容即ち腦髓及びその被膜の血液が、一部分多くなるとか又は少くなるとか云ふことに基くのである。

彼の所謂逆上するとか、頭がズキン〳〵するとか、脈を打つとか、頭が破れさうだとか云はれる頭痛、身體を働かすとか、頭を下げて強くなる頭痛、就中脳や脳膜の疾患の時に起る、頭の頂上や顳顬の邊の疼痛、又近頃八かましく云ふ所の脳の動脈の石灰變質(動脈硬化症)などの時に起るものは、前の充血の方の原因で起る所の頭痛に屬するものである。

次に全身の貧血、若い婦人に起る萎黄病などゝ共に來る所の頭痛で、額や顳顬の邊に鈍い壓付けられるやうな痛を覺えて、屢〻惰るいやうな衰弱したやうな感じがあつて、折々眩暈がしたり、いやに欠伸が出たり、胸が惡くなつたり、吐いたりする傾向のある局所或は全身の貧血と共に起るのが、これが第二類(貧血性)の頭痛である。

それから最も屢〻頭痛を起す原因となるものは、身體一部の臟器或は全身に熱を起す病氣であつて、傳染病、中毒等の時には種々様々に頭痛が起るものである。即ち急性傳染病の時、又その經過中或は種々の慢性傳染病、例へば結核、黴毒などの經過中に、頭が破れさうだとか、氣が變になりさうだと云ふ種類の甚だしい頭痛が起ることがある。中毒では、不良の空氣、有毒瓦斯、例へば酸化炭素等の中毒に由て頭痛が起り、其他アルコール、ニコチン、モルヒネ、阿片等に由ても起り、鉛、水銀、砒素等の慢性中毒の際にも烈しい頭痛が起るものである。

尙ほ身體自身が種々の臟器の病に由て毒を生じ、或は通常の如くこれを除いて無害にすることが出來ない爲に毒となると云ふことは、近來學問の進歩に依て段々明かにされ、今日では頗る價値のある説となつて來た、即ちこれが種々の所謂自家中毒と云ふことの原因である。

此事からして、吾々は、胃腸の機能が惡くなつたとき、肝臟や膽道の病氣のとき、腎臟及びその排泄の道の故障のあるときに頭痛が起ることも、能く説明することが出來るのである。即ち慢性腎臟病の或場合に於ては、有毒性の新陳代謝産物が血液の中に滯

る爲に、劇烈にして、發作性に來る所の一種固有の頭痛が起る。所謂尿毒性頭痛と稱するものである。その他單純の胃加答兒、又は稍や重症の胃病、例へば胃潰瘍などの時に起る頭痛で、これは腸の惡いとき、腸に寄生蟲などが居る時に、屢ゝ起る所のもので、大抵頭の後の方が痛むと云ふのが多いが、これも矢張大部分液體或は瓦斯體の有害產物が血液などの中に混入して自家中毒を起す爲であると云ふことが出來るのである。

最後に頭部に在る所の器官、即ち鼻及その副腔（上顎竇、前頭腔、咽頭及咽鼻腔、眼及耳等の病氣も、種々の事から頭痛の原因となるものである、即ち焮衝の刺戟が響いて行くとか、血液循環が一部分で妨げられるとか、毒性の物質を釀すとか云ふことに由て頭痛を惹起すのである。今その例を一つ擧げて見れば彼の鼻咽腔の腺様增殖と云ふものゝ如き是である。これは學校に行く年輩の兒童に最も多く見る所のものであるから學校頭痛などゝ間違つた名をつけて居るが、全くこの鼻咽腔の病氣に由て起る所の頭痛である。それで此の腺様增殖の殆ど總ての場合に、頭痛の原因此處にあることが認められれば、從つて直接にその頭痛の根治療法も行はれる譯で、實際よく治るものである。

斯う云ふ譯であるから、頭痛に對して、その一部分を冷やすとか、擦するとか、マッサージ或はそれやこれやの頭痛特效藥と云ふ如きものを以て一時これを緩解すると云ふだけでは滿足することは出來ない、宜しくその根本に立入つて、胃腸、肝臟、腎臟等の病氣を治し、新陳代謝の不規則を整理し、外から來る所の物質に由る中毒、又その結果は適當の方法を以て之を除き、一部分の疾患或は頭の外傷等はそれ〳〵療法を施して、前に述べた腺增殖を手術して治す如く）根治せしむる工夫をしなければならぬのである。

次に隨分少なくないものであるが、餘り氣付かれずに居るのは、ある眼病（近視、調節麻痺、眼筋麻痺

等に)由て額の邊に固定して居る一種の頭痛である。これは凹面レンス、凸面レンス又は圓柱鏡等を以て適當の眼鏡を作つて用ひ或は斜視の手術に由て立所に消散するものである。

總て斯樣な一部分或は全身の故障に由て起る所の所謂神經性頭痛に際して、習れて居る醫師は精細に檢査をした上で、その特別の關係を鑑別て、療治の方法を定めるものである。

其他にも種々の頭痛があるが、一々細かく玆で話すことは出來ない。尙ほその成立、經過に於て一種固有の偏頭痛(ミグレーチ或はヘミクラニー)と稱せられるものがあつて、これは餘程面白い特別の神經性頭痛であるが、既に何時ぞや此の雜誌に誰かゞ書かれたことがあると云ふ話であるから、これも略して仕舞ふ。

―(一〇九八)―

肺結核の始

夏野繁

今日の所では、肺結核の豫防撲滅と云ふことは、衞生上最も重大の問題になつて居りまして、公私共にこれが爲に盡力致やすうになりました、歐米諸國に於きましては、殆ど出來るだけの方法と、出來るだけの金とを懸けて、これが豫防撲滅策を講じ、現に講じつゝあるので、隨分見るべき成績を擧げて居りますが、遺憾ながら我邦に於てはこれに對して未だ何等公共的の設備も無いと云ふて差支ない有樣であります。歐米各國に比して結核病者は少ないのかと申すと、これは決して劣らぬのであります。唯劣て居るのは、正直の所一般人の衞生思想、公德心、金力、此等は慥かに劣つて居る、遙かに劣つて居るのであります。それで此程大切の事であつても、一向手出しをしないのである、と慷慨した所で始まりませんから、先づ〳〵何人も肺結核に罹らねばなら

ぬものと觀念して、扨て罹れば如何な氣持がするか、其時は又如何すれが可いかと云ふやうなことを知つて居るのも、確かに豫防撲滅の一助たるに相違ありません。

一體この結核病と云ふものは、數百年否數千年前より人間社會に巣を構へて、絶えず仇をして居る所のものでありまして、この結核病を起す所の病原體即ち結核菌と云ふものは、その形は至て小さなものであるが、人間の身體を侵すことは甚だ大なるものである、總ての器官を侵す、肺は勿論のこと腎臟又は腸、皮膚、骨までも破壞するものでありまして、病勢俄然として進行することもあれば、或は拔足插足と云ふ風で、徐々に人の生命を喰ひ縮むる場合もある。

結核菌は、分裂菌と云ふ種類に屬して居りまして、少しく曲がつた棒の樣な格構をして居ります。その長さはどの位かと申しますと、一ミリメートル（三厘五毛）を千分したその一つ半から三つ位の長さであります、それですから、一センチメートル（三分三厘）の縱隊を編制致しますのには結核菌が三千も整列しなければなりません。又一立方センチメートル）三分三厘四方を塡めるのには、結核菌の幅さはその長さの凡そ三分一でありますから、ざつと二千七百萬匹程縱横に積重ねなければならぬ勘定であります。

扨て又この敵兵の頑强なることは、人間が今日まで幾百年の間戰鬪をして來たが、未だに退治することが出來ない、學問の方からあらゆる武器を用ひて見たが、矢張征服しおほせなかつたのであります。今日では御承知のツベルクリンと云ふ妙藥も出來ましたが、これとてもなか〳〵此の國民病に對する完全確實の治療藥とは申されません、が併し昔のやうに、結核に罹つだが最後、もう人間仲間の亡者として、とても療治も何も屆いたものではない、只病人の苦しみを緩くして、幾分なりとも樂に活きて樂に死ぬるやうにするより外はないと悲觀するにも及び

ません。解剖をして見ますと、極めて不良の健康狀態と甚だしき經濟狀況の下に生活して居つた人でさへも、その肺には確かに肺結核の治癒つたものと認むべき證跡を見ることが隨分あるのであります。又經驗のある醫師は、所謂肺結核に罹つた者でも、殆ど治癒し或は非常に良くなつて、多少本統ではなくとも長年間その職業に務め、又高齡に達したものもあることを認めて居ります。西洋の療養所或は肺結核治療所などからは、隨分さう云ふ例が報告されて居る、我邦に於ても決してその例に乏しくないのであります。但し結核が眞實に續いて治癒すると云ふことは何時も唯病人がその病氣の初めに、然るべき醫師の治療を受けた場合に限るのであつて、既に肺が深く侵されて壞れてしまつてから相談に及んだのでは駄目である。

非常に健康に注意する家庭であつて、常に掛りつけの醫師の監視の下に、家族一同の健康狀態に氣をつけて居るやうな家では、手遲れと云ふやうなことは稀であるが、一般社會に於ては、病氣が重くなつて、いよ〱危ないと云ふやうになつてからでなければ醫者の厄介にはならぬのであります。

肺結核は、二三の病形は別として、所謂慢性傳染病の中に數へられるものでありまして、痘瘡、虎列刺、麻疹、猩紅熱などゝは、その徐々に發して緩慢に經過する所が異ひます。虎烈刺や痘瘡は急に起つて、その變化も著しい特徵を現はしますが、肺結核は、病氣になつてから一週間或は一個月、時としては一年餘も經てから、病症を現はし、而かも格別肺には重い病氣の徵も認められず、只萎黃病とか、頑固の胃腸加答兒とか、始終反復す所の氣管枝加答兒であるとか、或は只一體に衰弱して、何となく力が無いとか云ふやうな風で居るのが普通であります。

大抵十六歲から二十歲位の年齡の若い娘さんが、先づ此病氣に罹りますと、皮膚の色が蒼白くなり、口唇や齒齦の色も白味を帶びて紅があせて來る。而して時々僅かに惡寒を覺え、これまでは平氣で行つた

仕事も、どうやう物憂く疲勞を感じ、少し道を歩いても息苦しく、殊に階段や阪道などを登るときには動悸して呼吸が苦しくなると云ふ風であります。消化は比較的早くから惡くなりまして、往々一週間も一月も頑固に食氣が無くなることがあります。身體は段々瘦せて參りまして、時々短い乾咳が出る、而して暮方になると輕い熱が起るものであります。斯うなると傍の人々も、何か重い病氣に罹つて居るのではあるまいかと心配して、初めて醫者に相談をすると云ふことになるのであります。此時に委しく診察すれば、潛むで居る所の肺病が發見され、これまで貧血の藥とか胃病の藥とかを用ひても更に效能の無かつたことが忽ち解る、斯樣な場合に、經驗に富んだ醫師であれば、假令肺の方から來て居る明かな症狀は無くつとも、體質や胸の具合、その他全體の症狀から察して、既に早くから正當の判斷を下す、又一方には一定の原則に從つて行ふ所のツベルクリンの試驗的注射或は皮膚接種又は眼反應などの方法に依て、略ぼ診斷をつけることが出來るのであります。

それでありますから、病人は勿論、周圍の人々も、萎黃病、貧血等の症狀が見えても、何、年頃になると往々斯樣なことがあるものだなど〻平氣で澄して居るのは、餘程氣をつけなければならぬ事であります。實際肺結核の始に現はれる所の症狀は、單純の貧血と餘り異りはないのであります。

又或場合には、此病氣の初に當つて、胃腸等の消化器の方の病狀が主に現はれて、さても他の病氣から來たものとは考へ付かぬことが屢〻あります。併し經驗上頑固の食慾不振、呑酸、嘈囃、胃部充滿の感、胃部壓重の感等ありて便祕を來し或は下痢を來すことが、肺結核最初の症狀となつて居ることがありまして、餘程注意をしても、斯樣な症狀が危險のものとも思はれず、その原病を早く認めることが出來ずに見逃す場合も稀でありません。

こ〻に注意すべきことは、可成早く之に氣がついて、

適當の時期を失はぬやうにすることであります、それで自分の近親に結核に罹つた人があり、一體に虚弱で、特に胸廓の發育が惡いと云ふやうな人であつて、別にこれぞと云ふ原因も無くして消化障碍が起り、攝生をしても久しい間頑固にそれが續くとか或は暫時の間に著しく痩せるとか云ふことがあれば、假令輕いにしても餘程用心しなければなりません。

呼吸器の方に徴候が現はれる時には、これは醫者でなくとも、先づ肺結核では無からうかと云ふ疑は容易に起ります。併し此場合に暫く間を置いて繰返す所の咳嗽がありましても、別に痰は出ず、只僅かに粘液樣の物が出る位に過ぎませんから、一向心に止められません、甚しき空氣の缺乏、膿の樣な或は血液を混じた痰、又は羸痩、發熱、盜汗などに由て、いよ〱肺結核と云ふことが明かに現はれて來る前數箇月或は一年餘も、斯樣な短い輕い咳嗽が出て居るものであります。

尙ほ僅か努力しても直に息が切れるとか、胸の其處此處に痛がある、特に胸の上部或は下部に疼痛を覺ゆるのが、重い病の最初の徴候であることも屢々あります。併し胸の痛み、胸部の刺痛は、胸筋のリウマチス、或は肋間神經痛などに因ることが多い、又一部分の肋膜炎に由る場合も少なくありませんが、この肋膜炎と云ふものは亦結核が土臺になつて居る場合がなか〱多いのであります。

斯樣に述べますと、氣の早い人や、心配性の人は、これを一讀して、忽ち自ら、肺結核に罹つて仕舞はぬとは限りません、成程さう、聞いて見れば、どうも私は結核に罹つて居るやうだ、いや私も矢張結核に違いないと、無闇に妄想を起して、遂には本式の肺結核に罹る下地となるまいものでもありませんから、そこでもう一度此處で聲を大きくして繰言をして置きますが、右に申述べたる諸症狀は、必ずしも結核が潛むで居らなくとも起ることがあり得るものである。咳嗽が出るからと云ふて、結核とは云へぬ。

咽喉から血が出たからと云ふて必ずしも結核ではない。他の病氣でも瘦せ、又盜汗の出ることがある。けれども斯樣な諸症狀の現はれる場合には、結核に罹つて居ることが多い、又結核に罹れば斯樣な症狀が起り得るものである。且つ經驗に依て見るに、結核の病變の治癒すると云ふことは、唯その初に於てのみ望み得べき事であるから、遺傳的に結核に罹り易い虛弱の體質の人は、特に此點に御注意あらんことを希望する次第であります。

育兒

神經質の小兒

醫學士　井上吉之助

小兒の時期に頗る神經質な、知覺の過敏なのを見る事がある、のみならず已に哺乳兒にも神經過敏の者がある、斯樣な神經質の素質は幼少の時に腦膜の疾患を經たとか又は頭部に打撲、損傷等を受けたとかが原因となつて現はれる事もあるが其れ等を除いては遺傳的のもので、生れながらにしてそう言ふ性質を有するものであるけれども、小供の時に神經過敏の者が成人して尙益々神經質になるには其れ迄の家庭に於ての生活法や學校に於ての敎育法又は施した治療法が大いに關係するものであつて、もし已に神經質の素質の有る所へ兩親や敎育の任にある人の示す模範手本が間違つて居た時には愈々其の素質を增加せしむるばかりでなく引いては重大な神經的精神的の疾病を惹き起す事にも到るものである、であるから小兒の監督者たる人は注意を怠る事なく、其神經的の素質のある事を見出したならば早々之れに向つての豫防方法、治療法を加へて眞の病氣にならぬ樣、未發の中に防がねばなりません、又其の盡し方によりては年の長ずると共に神經的の素質をも殆ど

癒する事が出來るものです。

扨て斯樣に重大な關係があるのであるから、小兒が神經質であるか否かを區別する事大切である、元來健全な小兒であれば、外からうける刺戟や感覺は其の時、一時のもので多くのものは跡方もなく過ぎ去つてしまうものであるのに、神經的素質のある小兒では其れが強く、永く續いて時には意外の事件を起す事さへあります、例へば落雷の時の響、大砲の音の樣な突然に起る時には、健康な小兒でも勿論驚いて泣き初めるが神經質の小供では其れが非常に烈しい、又、哺乳兒でも何か傍で躁しい音がするともし健全な素質のものであるとその音のする方を振り向いて見るだけであるが神經質の小兒であると急に驚いて身體を縮める樣な擧動をする、この樣な驚き易い事、過敏な事が尤も大切な注意すべき點である。唯に大きな音や電火の樣な突然の光り許りでなく其の刺戟の印象にも小兒に取つて不愉快なものがある樣である、之れも亦注意を要するものであつて、小供の多くは鋭どい話聲、高い笑い聲、著物の黑いのや、眼鏡がギラ〳〵光るのを嫌ふもので又嗅ふものの中にも感じ易いものがある、それで少さな小兒や哺乳兒が之れ等のものに出會ふと不愉快らしい樣子をする、元來快不快は人の感情であるから夫れ夫れ人によつて異なるもので、自分を本位として律する事は出來ない、小兒にあつても其態度有樣で愉快と感じて居るか不愉快に思つて居るかを見別けねばなりません。

それならば不愉快の時にはどう言ふ事をするかと言ふに顏色が靑ざめて、身震をする又は手足を震はす、泣くにも苦しそうな叫び聲を立てる、時には下痢の便を出す、又睡眠が障碍される事もあるので之れは之れ等の刺戟が不快であるに違ひないと言ふ事がわかる、そればかりでなく一度驚いた事が一時ですまずに永く殘つて十日も一月も後になつて倘思い出す樣な事を見る事がある。

之の物事に驚き易いと言ふ事に次で大切なのは小兒

が凡ての事に落付がないで者に移り易く、始終不安に見える事です、之れに就ては元來が小兒の事であるから、不安の樣子と言つてもそれが病的であるのか、健康の者の現はして居るものであるのか、其の間に區別を立てる事のむづかしい事もありますが、よく〱注意をして觀念すると、玩具を持つて遊んで居ても落ちつかないで無暗と夫れから夫れへと移つて行く工合が健全な小兒と異なつて居る事を見出す事が出來る、又そう言ふ小兒に限つて、何かある事に無中になつて爲して居るかと思ふと、急に厭きが來る、そうなるとどの樣に勉めても最早やる氣がなくグッタリとして止める、此言ふ物に厭き易い、疲れ易い小兒は小兒として注意を集める事がよく出來ぬ爲であつて、之れを敎育するには大いに忍耐を要するものである。

倘斯樣な小兒は其の感情も同樣に動き易いものである、非常に氣嫌よく遊んで居るかと思ふと、すぐ不氣嫌になり、又ぼんやりして失神した樣子をして居ると思ふと、急に氣にしたり騷ぎ出す、嬉しい事にも、悲しい事にも、少しの動機でひどく感ずる、時には之と言ふ原因が別になくて泣いたり笑つたりする之れ等の事は小兒の年齡の多い程著明に現はれるものである。

小兒が初めて小學校に入り他の家の兒童等と一所になつて、言はゝ共同生活を初める時に當り、健康な小兒であると直ぐに其れに慣れてしまうが、神經質の小兒となると身體上にも亦精神上にも之れに慣れ難い、朝起きると今日は遲刻になりはしまいか、本を忘れはしまいか、と等心配し學校の敎室に入つては、授業時間中靜粛に座して居るのが苦痛で、同じ級の者共と一所に仕事をするのが厭であり、之れ等の事が集まつて遂に頭痛を感じて朝登校前になると嘔吐を催し、食氣が減じて、身體が疲勞すると言ふ事になる、又一方成績でも良くないと敎師からの責を恐れ、又兩親の手前に心配を抱く樣になる、こうなると敎育者又監督の任に當つて居るものゝ指導が

當を得ないと益々其の度を高めて危險にならぬとも限らないのである、神經的の病氣になつたり、又間違へば自殺する樣な事にならぬとも限らないのである、そうなつては取返しが付かぬから、そう言ふ樣子を認めたならば十分注意して豫防せねばならぬ。

智惠才能に就ても又常規を脫して居る事が多い、卽ち偏して居る、そして忍耐して勉强したり、仕事する氣力が乏しい、然しある一事については頗る才能がある樣に見ゆる、斯樣な兒童に對しては殊に兩親の考へ方大いに注意を要するものである、兎に角かかる偏頗な才を偏頗に敎育する事は、危險の事多く病的になり易いものであるから、敎育者の忍耐を以て間斷なく規則的に仕事をする樣に慣らす必要がある。

小兒が突然に今迄と違つて我儘が强くなり、兩親や長上の人の言ふ事を聞かず、そうするものでないこうであると諭しても、少しも聞き入れず、はては大聲に叫び狂ふ事がある、こう言ふ有樣のあつた次の日にはよく小兒の身體上に何か不快がある、熱がでたり等する、又時には之の事が重い傳染病の前驅である事もある、つまり身體に潜んで居た病氣が丁度發現した徵である事があつて健康な小兒でも、か樣の時には免かれないものである、況して神經質の小兒であつてはそれ程でない體の不和でも非常に精神上に影響があるものである、もし小兒が急に粗暴の擧動になつたならばよく身體に異常の有無を確めねばならぬ、又小兒が無意にする擧動行爲の中に其小兒の心の中に潜んで居る心配の事が窺はれる事がある、例ば散步に連れて行かうとすると只之れを拒む事があるよく探つて見ると二三日前に道で犬に合つて恐ろしい思をした事のあつたのを知る、又二階や物置から物を取つて來る樣に命じても行かない、それには心に何か怖ろしいと云ふ考があるのであるが其れを言はず、又勇氣のないと思はれるのを羞じて只譯なしに拒む時がある、其外神經質の小兒は兩親や他人に對し又は動物に對しての感情が自然的で

ない様な事が多い、頗る冷淡で又自分の利益の爲めに平氣で虚言を言ふ、又動物に向ふて殘忍な事をして喜こぶと言ふ事が著しく目に著く事がある、之れ等の事は然し教育法によりてかなりに矯正する事も出來るもので、少しの事は、どの小兒にもある事であるので、その程度の烈しいものは病的として特に十分な注意を要する譯である。

斯様に神經質の小兒は精神上に種々な異なつた點を示す外兩親としては又日常に於ける其小兒の身體上の症狀を注意する必要がある、一寸見た所では少しも惡い、害のある事をも思へない動作の中に夫々に意味のある者がある、瞬を多くするとか、手が顔へる、爪を噛む、話をするに一寸吃る又何かあると直に顔が青くなる、よく下痢をする、殊に大切なるは睡眠が十分に取れぬ事である、夢を見る事が多く牀に入つても、彼方此方とよく向を更へたり、時に夜中に大聲を上げたり、驚いて飛び起きたり、又た夜尿をする事もある、之れ等の事は家庭にあつて母たる人、年長者たる人が注意をして觀察して置くべきものです。

扨て神經質の小兒であると確められた時之れに對して、どう言ふ治療法、教育法を施こしてよいか、此の問題は頗る重大で又難かしいもので其任に當る人の尤も周密な注意を要するものであつて、もし間違へば癒そうとして、却て強く、烈しくする様な反對な結果を得るにも到るのである、教育するにしても嚴格に過ぎて行かず、溫和に流れてゆかず、常に平等に徐々に其目的を達する様にせねばならぬ、之れ等は茲に十分説明し盡す事は到底難しい事であるにより、唯家庭に於て常に注意すべき一二の點を擧げてをきます。

尤も注意を要するのは睡眠です、どの小兒でも睡眠は十分でなければなりませんが、殊に神經質の小兒に取つては餘計睡る様にさせねばなりません、早く牀に入れて朝緩りと起す、然し朝遅く迄と言ふても目が覺めてゐるのを牀の中でマヂ〳〵さして置く事

はないのであるが、まだ十分に目が覺めないで恍然として居るものを無理に起して、冷水で目を覺ますなどはあまりに烈しい仕方である、眠つて居る間は靜かにして自然と目の覺める樣に仕向けねばならない、又眠る前物を食して胃が充滿して居て直ぐ牀に入るは宜しくない、睡眠を防げる原因となるものである、然し又あまりに空腹であつても、眠り著けぬもので且覺め易い、そう言ふ時には牛乳の溫いのか葛湯又は「カステラ」の少しも食べさして眠りに著かすがよろしい次に小兒の寢る室は出來るだけ暗いのが宜しい、眼の邊へ直接に電燈の光り等が當るのは惡い、熟睡を防げるものである、元來睡眠は時間が長いからが良いのではないので、深く眠るのが眞に休まるものである、いくら永く眠つたと言ふても、淺い眠りではそれだけの效はないのである、神經質の小兒は習慣を破る事の難かしいものであつて、今迄明るい室に寢て來たものが急に暗い室に寢かそうとすると、却て興奮して、怖れを抱いてよく眠れないものである、之れには急に暗い室につれて寢かす事をせず、明るい室で今迄の樣に寢かして、よく眠り入つたのを見て、暗くする、それも眞暗にすると夜中に目の覺めた時に驚くから薄暗い位にして、徐徐に慣らしてゆくと遂には平氣で暗い室に寢る樣になる、のみならず暗い方がよいと言ふ樣になるのである、次に寢る牀は相當に溫かにするとよく眠る、之れも度があつてあまりに溫かに過ぎると却て不良無理があつては宜しくない、兎に角神經質の小兒は凡ての事に感じが強いと言ふ事を念頭に置かねばならぬ。

食物に就ても神經質の小兒は非常に好惡がある、之れも無暗に其反感を高める樣に仕向けない樣に注意が大切である、酒「ビール」又其の外のものでも「アルコホール」の含んで居るものは絕對に避けねばなりません。

麻疹と猩紅熱に就て

醫學士 K T 生

昔から痘瘡を容貌定め麻疹を命定めと申まして、誰も之れを免れる人はない様に考られて居つたのでありますが、痘瘡だけは幸に種痘が行はれる様になつてから殆んど流行しなくなりまして、多くの人は生れ付きの容貌を備て行く事が出來る様になつたのであります。

然し麻疹は今日でも殆ど凡ての人が免れる事の出來ない病氣でありまして、殊に小兒の中に、是にかゝる者が多く、随て母親も重い病氣とは思はず輕々しく考て居る向も多くある様であります。而も輕症であると、醫者も要らず藥も要らず、遊びながら經過して仕舞ふ事も屢々あるものであるから、益々斯う云ふ考を起す人が多くなるのも無理はないのでありますが、麻疹と雖も決してそれ程馬鹿にした病氣ではないので、百人中七八人の死亡者があるのであります。丁度三四月頃は流行時でありまして、近頃麻疹、猩紅熱を見る事が多くありますから、之に就て大略を述やうと思ます。

先づ麻疹から申ますならば、其原因は尚不明でありまして、随分是れまで報告もある様でありますが、一つも當てになるものはありません。其傳染は如何云ふ風に行はれるかと申ますと、(一)直接に病者に接する事、(二)病人に接近する事、(三)遠方でなければ人動物又は玩具に附て傳播する事があります、(四)間接には皮膚の細な粉が飛で之れから傳染する事もあります。麻疹にかゝる素因は誰も持たぬ者はないので、又二度罹る事も稀であります。然し時には三度もやる事もある様に記されて居ります、尤も二度罹たと云ふ人があつても、必ずしも前のが實際眞の麻疹であつたか、又左様でなかつたかと云ふ事を定めのは、困難の場合もあらうと思ます。

扨次に其症狀でありますが、潜伏期即ち傳染してから發疹の出來る迄十三四日かゝります。其間に十

日目頃から前驅症狀が顯はれます。近頃其れより前に既に體溫に異常があると云ふ人もありますが、之れは唯其家の近傍に麻疹があつて傳染したらうとでも思て注意して居る時でなければ到底分るものではあるまいと思ひます。前驅症狀として來るものは鼻加答兒、結膜炎、咳嗽等であります。小兒は恰も風邪を引た様に水鼻を出し、眼は赤くなつて光を厭がり、朝は目やにで閉ぢらるゝ事もあります。

又氣管が犯さるゝ爲に乾た咳嗽が出、又聲の嗄れる事もあります。又時には喉頭が腫れる爲に呼吸困難を起し、爲に恰も實扶的里性格魯布に似た様な狀態を起す事もあります。

扨此狀態を過ますと發疹期になります。此れは麻疹に固有な發疹を起す時期でありまして、先づ顔面殊に眼及口の周圍にぱら／＼と赤い細い發し物が出來まして、之れから腕から脛手足迄廣がります。色は始めは鮮紅色でありますが、漸々暗赤色、褐色になつて、多少血の色素が出る爲に暗紫色を呈する所もありますが、之れは決して怖るゝに足らぬ現象であります。

熱は加答兒期卽ち前驅症狀を起す頃、一時急に上昇致しまして三十九度以上にもなりますが、翌日は又再び下つて平溫、又は極輕度の熱迄下り、次に發疹の出來ると共に再び四十度以上にも上つて五六日繼き、發疹の褪色すると共に急に平溫迄下ると云ふのが通例でありますが、時には又た發疹期迄漸々と上昇して來る事もあり、又發疹の出來ると共に急に熱發する事もある様であります。

發疹期になりますと、前にあつた鼻、眼、喉頭氣管の加答兒は益々激くなりまして鼻汁が出る、涙が出る、光を厭がる、咳嗽が甚しくなると云ふ様になります。同時に小兒は意識の溷濁を起し、夜は譫言を云ふ事もあり、食慾なく、頭痛等も起ります。

然し之れ等も熱の下ると共に漸々と消失しまして、次に恢復期に移行します。

以上は中度の重症者に付て述たのでありまして、此

經過を通じて麻疹に特有であるのは、

一、コプリック氏斑、及口粘膜の發疹

二、熱の特有な經過

三、發疹の狀態

等であります、此コプリック氏斑と申すのは、加答兒期に顯はれる重要な症候でありまして、頰の粘膜殊に齒齦に移行する所に數個の青白い斑點を生ずるのであります。此れと同時に口蓋の粘膜に線狀又は斑點狀の發赤を起すのであります。第二に熱は前述の如く二つの山を作る事が特有であります。發疹の特有な事は、鮮紅色の斑點を生じても、赤い間に尙普通の皮色を殘すと云ふ事、口の周圍に發疹が起る事であります、之を尙後に猩紅熱の條下に對照して申上ます。

次に恢復期になりますと、皮膚は糠狀の落屑を起します、之れが又猩紅熱と異る點であります。

次に特別な經過を申しますと、輕い方、重い方にも種々な移行があります。

先づ極輕症であると、僅に發疹を生ずるので、加答兒症狀も極少く、熱も低く、殆ど遊びながら經過して仕舞ふ樣な者もありますが、一方には極重症もあります。之れは神經症狀が主に顯はれて來るもので意識は溷濁し、不安、振戰、斜視等の腦膜炎の如き症狀を呈して死するものであります。

今一つ怖るべきは、所謂麻疹を追込だと云ふ形で來るものがあります。之は多少重い前驅症に次で僅の發疹が出來、呼吸困難が起りまして遂に死に至る者であります。

次に麻疹に合併して怖るべき病氣は急性中耳炎、氣管枝肺炎及び腸疾患等であります。此中耳炎は咽頭からオイスタキー氏管を通じて中耳に炎症が進むに因て起るものであります。熱は再び上りまして耳の中に疼痛を起し、頭痛が甚しくなると云ふ樣な症候で顯れるのであります。

次に氣管枝肺炎は、麻疹の時必ず來る。氣管枝炎が益々進で肺の氣泡を侵した時に起るものでありまし

て、最も怖るべき合併症であります。之が起りますと、呼吸は益々早くなり、既に下る筈である熱が下らないで遂に死に至る事もあります。纎弱な小兒には屢々起るものでありますから、最も母親の注意を要する病變であります。

麻疹の腸疾患は、多少下痢を起し、便に粘液血を混ずる等でありまして、多くは大した事もなく治癒するのでありますが、又時には此れから敗血症と云ふ怖るべき病氣を起す事もあるそうであります。左樣でなくとも、下痢を起す爲に榮養を害して衰弱を起し、他の合併症でもある時には身體の抵抗を弱める怖れのあるものであります。

又麻疹の經過後に種々な不快な病氣を起す事があります。第一に述べきものは結核で、之は既に傳染して居た小兒が氣管枝炎等を起す時之に乘じて肺に浸がり、遂に生命を傷ふ樣な事があるものであります。今一つは水癌と申して、幸い治癒しても顔面に甚しき醜形をのこす病氣でありますが、之が又麻疹後に屢々あらはるゝものですから、簡單に其症狀を逃ますと、先づ熱が高くなり、精神が溷濁して來まして、其中に頰が痛もなく膨れ上り、一部腐敗して取れて仕舞ふ爲、頰に大きな穴が出來るのであります。其間に心臟麻痺を起し、肺炎を起して死ぬる事もありますが、幸い助かつても、上の如き見惡い顔になつて仕舞ふ、實に厭ふべき病氣であります。

麻疹の時の治療は如何するかと云ふと、凡ての病氣に云ふ如く一に看病でありまして、藥を飲むばかりで看護法が宜くなければ、到底治療する事は出來ません。之を一言で云へば、清潔であります。室は勿論溫くして乾かぬ樣にし、ほこりの立たぬ樣に注意して、あまり明るい室はまぶしがりますから、少しく光を避け、目や口は常に洗てやる樣にするのであります。

醫者が時々素人方から非難を食ふのは、麻疹の肺炎の時、胸に濕布を當てる事であります。然し之れは決して差支ないものでありますから、落付て醫師に

任して置く方がよいのであります。西洋では一勿論日本でも行つて居る人がありますが一風呂へ入れまして、胸に水を掛ける方法もありまして、甚だ好結果である樣に記されて居ります。其他凡て醫師の指圖に隨つて看護すべきであります。

麻疹の豫防法は未だありませんが、普通の小兒であれば大した危險のある事は少いものでありますから別に豫防する必要もないのであります。然し二年未滿の小兒が居れば、直に隔離する方が好いのですが多くは麻疹と分る頃には、既に他の小兒に傳染して居る事が多いので、全く無效に終る事もあります。二年以上の兒で、其流行の性質もよく、身體も健康ならば、なるべく小兒の中に經過して仕舞ふ方が好いのであります。

病後の注意は、熱があり、咳嗽のある内は病牀に居る樣にし、室外へは少くとも四週後でなければ出さぬ方が宜しい。又三ケ月位は結核に罹り易い時期であるから、なるべく結核患者の近くへやらぬ方がよろしいのであります。

麻疹の事は大體此位に止めまして、次に猩紅熱の事を述ましやう。此れも近頃大分流行する樣で、麻疹に比して遙に怖るべき病氣であります、病原は麻疹と同樣で尙不明でありますが、近頃一種の桿狀菌を發見したと云ふ人もあります、之も亦一度罹ると多くは二度と罹るものでありません。年齡は三年から八年の間に多く、其傳染は麻疹と同樣に病人から、直接に傳染し、又は人や玩具に付て他の人に移る事もあります。

潛伏期は、麻疹の樣に一定せず、二十四時間と云ふ事もあり、五七日かゝる事もあります。

前驅症は猩紅熱にも殆どありません。

病氣は急に嘔吐、頭痛、倦怠を起しまして、熱は三十九度乃至四十度に上ります。小さな兒であると痙攣が起り、此れから半日乃至一日で咽頭に痛を起します。

之れから發疹が起つて、頸、胸及其他の部分が鮮紅

色になります。之を子細に見ますと、多数の細かな斑點から成立て居ります。麻疹の發疹と異ひまして口の周圍には決して出來ません、其外觀に於ても、麻疹は赤い間に普通の皮の色が見えますが、猩紅熱は恰も赤いインキを流した様に見えます。之れから六七日の間は熱も高く、咽頭の痛も進で來ますが、發疹の消散すると共に、熱も漸々と下つて平常に復して、之れから落屑期となるのであります。

此時期に特有なのは、麻疹では糠狀に剝けるに反して、此場合は大きな皮になつて剝けるのであります

これから尚怖るべき病氣は、第二週目の終り、又は三週間目に來る腎臟炎であります。之が起りますと多くは一度下つた熱が再び上りまして、一日の尿の量は減少し、顔面及び全身にも浮腫が起ります。此時危險甚だしきものは尿毒症でありまして、小兒は烈しい頭痛、嘔吐を起し、意識は溷濁すると云ふ重い症狀を起し、遂に痙攣を發して死亡するものであります。

扨次に猩紅熱の經過中に來る合併症の中、最も怖るべき者を申せば、壞疽性咽頭炎なるもので、咽頭に實扶的里と同様の白苔が出來まして、之が腐敗性を帶て、遂に全身の敗血症なる危險な病氣となる事があります。又眞の實扶的里も合併する事がありますが、此時はレフレル氏菌なるものを見る事が出來ますから、之に依て上述のものと區別する事が出來ます。

以上は普通のものの經過を述たのでありますが、之にも病の輕重種々ありまして輕いものは僅に咽頭加答兒があるのみで經過するものもあり、重症であると二三日で重い神經症狀を起して死亡する者もあります。

猩紅熱の療法は麻疹と大差ありませんから略しますが、一言で云へば、清潔を守つて病氣の經過を待つのであります。他は萬事醫師の指圖に隨ふが宜しからうと思ひます。病院治療が出來れば最も好いのであります。

豫防法は病人の隔離を致しまして、其玩具器物等は十分消毒して仕舞ふのであります、是に就ても病院へ送るのが最も適當であります。
又其病人を出した家族の人は、なるべく他の家を訪問せぬ樣にせねばなりません。

家庭衛生

恐るべき木精中毒

木精即ち「チメールアルコール」の中毒と云ふものは、かなり古くから知られて居るのでありますが、餘り度々あるものではないから、一般には知れ渡つて居りません。併し西洋諸國には屢々ありました。而かも一時に多數この中毒患者を出して隨分大騷をしたことがあるのであります。現に昨年も獨逸國伯林府に於て、この中毒患者が出來て一時大に狼狽致しました。それは丁度昨年の「クリスマス」に際して、無宿者の宿泊所に一人の病人が出來て、醫者の來るのを待つ間もなく死んで仕舞つたが、翌日には續々同樣の病人が出來て、此日の晩までに十六人も死亡者を出したのであります。然るにこれが何病であるかとんと解からない、病狀が現はれると間もなく死んで仕舞ふ。併し兎に角この病人は、非常に衰弱したやうな感じがして、呼吸が困難になつて、手足に痙攣を起し、腹痛を起して來ると云ふことだけは分かつた。尤も一人の患者は、その死ぬる前に眼が見えなくなつたと云ふことでありました。それから引續き同樣の患者が出るは出るは、初發二十六日より歳終一月二日迄の間に百六十一人と云ふ澤山の病人が出來て、その内六十七人は死んだのであります。そこで此の病人が出初めて、何やら怪しげな病氣であると云ふので内務大臣は衛生官吏、病院の醫師、裁判醫、細菌學者、化學者、それから警察とか檢事局とか、市役所とか總て關係ある官廳の代表者を召

集して、病源の調査に取掛つたのであります。その結果これは、兎に角傳染病でないと云ふことだけは確かになつた、扨て然らば何んであらうと種々研究する中に、肉類の中毒らしいと云ふ説が出まして、最初病人の出初めに、多數のものが燻魚を食べたと云ふ事實があり、傳染病學敎室で行つて見た試驗も、何うやら、それらしい成績が見えたので、殆ど肉中毒と云ふことに定まりさうであつたが、まだ怪しい點があるので段々取調べて行きました所が、この無宿者救護所の近邊の居酒屋では、ある賣藥商より買入れた木精を以て贋造した火酒を賣つて居ることが分かりましたので、それからそれと調査研究を進めて參りました結果、いよ〳〵「メチールアルコール」の中毒であると云ふことが確證されたのであります。これ迄亞米利加、露西亞、匈牙利等に此の種の中毒事件の起つたことがありましたが、獨逸では昨年初めて起つたのであります。

我々日本の醫者は、この記事を見まして、全く對岸の火事、否もつと遠いボヤの如くに觀じて居りました所が、本年に至つて突如として、これが東京市本所區に起つたのであります。近頃の新聞を御覧になつた方は、御承知で御坐りませうが、一名の車夫が急に目が見えなくなりまして、三井の慈善病院に診察を受けに參りました所が、眼科部長の宮下醫學士が診察をされた結果、或は「メチールアルコール」などの中毒に由て失明したのではなからうかと云ふ疑ひを起されまして、その車夫が病氣になる前に酒を飲んだと云ふ居酒屋から、車夫の飲んだと云ふ一杯四錢五厘のブランデーを取寄せて分析試驗をして見ました所が、果して少なからぬ「メチールアルコール」を含むで居ることが發見されたのであります。それでは此酒を飲んだものは、この車夫一人だけではあるまいから、他にも同樣の害を被むつたものがあらうと思はれましたが、果してそれと診斷のついたものが四五名現はれて參りました、其他脳溢血でか、心臟痲痺とか云ふ病名の下に届出られた死亡者

の屍體檢案に於て、矢張「メチールアルコール」の中毒に因て死亡したらしいものが大分あつたと云ふことであります。

さてこの「メチールアルコール」の中毒に罹れば、何如なる病狀が起るかと申しますと、これは其の分量にもより、各個人の特性にも由ることでありますが、先づ大抵「メチールアルコール」を混じて造つた混成酒を飲む、或はそれを紅茶などに混せて飲む場合が多いやうでありますが、それを飲むでから數時間或は一晝夜位經つてから、嘔氣、嘔吐、頭痛、眩暈、倦怠、衰弱の感、又痙攣、腹痛、下痢等の種々の症狀を發し、呼吸困難を來して、昏睡に陷り、間もなく死んで仕舞ひます。幸にして死を免れるものは、二三日も半死半生の有樣で、場合に依つては暴れ出すこともあり、或は譫語を言ふて頻に呻吟することもあり、兎に角無意識狀態になつて居りまして、それから漸く醒めて本性がついて見ると、今度は眼が見えなくなつて居る、或は非常に視力が衰へて居ると云ふことに氣がつくのが多いやうであります。これは先づ最も烈しく來た時の症狀でありますけれども輕いにしても、これに似寄つた病狀を起すのでありまして、實に危險千萬のものであります。甚しいものは死し、死なぬものは盲になる。その盲も本統の盲で、物が見えないばかりではない、光さへも感じない、即ち明るいか暗いかも區別し得ない絶對的の失明を來すのであります。尤も一二週間の後に漸次視力を恢復して來て、餘程の所まで見えるやうになることが屢ゝありますけれども、これも大抵、再び視力が衰へて遂に全く失明して仕舞ふものが多いのであります。治療法とても餘り效を奏するものがない、それで「メチールアルコール」中毒の豫後、即ち結局の所は甚だ良くないものであります。「メチールアルコール」は工業上に必要のものでありまして、セルロイドを溶かすとか、鞣皮を製することか云ふことには是非無くてならぬ、それで工業が盛になつて來れば、益々この需用が多くなつて參りま

す。殊に只今の所では種々の關係から普通の「アルコール」よりも價が廉く付きますから、從つて混成酒を造るにこれを用ゆるやうなことにもなるのでありませう。御婦人方の好で御用ひになります香油、香水等にも大抵この「メチールアルコール」が使つてある。即ち香水の素になるエッセンツを輸入して、それを此方で「メチールアルコール」で以て溶かして何々香水として賣るのであります。香油や、香水は御用ひになりましても別に大した害も御坐いますまいが、香水の需要が多くなると共に「メチールアルコール」の需用が多くなる「メチールアルコール」の需用が多くなれば從つて此度のやうな事件も多くなり易い譯であります。且「メチールアルコール」は單に飲んで中毒するばかりでなく、その蒸氣に由ても中毒に罹る場合があります。工業上には誠に必要なる藥品であるが、衛生上には又實に危險なる藥品で御坐います。

御婦人方が「メチールアルコール」製のものを御用ひになる場合は香水位のものでありませうが、男子は酒を飲む人が多いから餘程注意しなければなりません。下野、樺太等の醋酸會社からは、尤も粗製の「メチールアルコール」所謂木精と稱せられるものではありますが、副産物として澤山出來るやうになつたさうでありますから、或はこれが又如何なる所に應用されるか分りません。これから夏になつて、暑氣拂ひとか何とか云ふて好んで燒酎やブランデーを用うる爺や又は車夫などには、奥樣方から注意を與へられたならば功德にもなる事であらうと存じます。衛生上「メチールアルコール」問題が八かましくなつて參りましたので、御婦人方には餘り緣が無い事のやうでありますが、これが又實際直接間接に、何處に如何なる影響を及ぼすか分かりませんから、面白い事でもありませんが、一通り御聞に入れて置くも惡くはなからうと存じまして、この家庭衛生欄の一部を拜借して斯くは申述べた次第で御座います。

キササに就て

キササと申せば何やら優にやさしく聞えます。ペチクリーと云へば一寸可笑しく響きますが、ペチクリーは羅典名、キササは古語で、何れもシラミのことゝ承はつて居ります。シラミと聞きますと何だか既にむづ痒いやうな氣が致しますが、貴婦人方には御覧のあらう筈も御座いますまいから、結句珍らしい生物で、而かも昔から人間には大分緣の深い蟲でありますから、一通御紹介致して置いても宜しからうと存じます、實際衞生上に關係がある、特に家庭衞生に於て少なからぬ關係を持て居る生物で御坐います。

蛇と云ふものも暖かくなつて參りますと、そろ〳〵穴から匍い出して、厭がられますが、これは又大變に愛養される人も稀にはありますけれども、虱に至ては、餘り愛されません。蛇は非常に恐れられますけれども、虱は左程恐れられませんけれども、實際は蛇に劣らぬ、蛇よりもその害が廣いだらうと思はれます。蛇は草村を通行する際に稀に見る位のものでありますが、虱は衣服身體に巣を構へまして、人から人と移されます、汽車旅行などを致しますと往々、絹の御召にも遠慮なく匍上ると云ふことが屢々ありますし、湯屋などに參りますと時々貰つて來るものであります。

虱は頭髮部、陰毛部、衣服等を住家と致しまして、其居住地に依て各々形も種類も異つて居ります。形の一番大きいのは衣虱でありまして、六七厘から大きいのは一分以上もありまして、頭虱に較べますと少し細長い方で、脚は六本、色は黑味がかつた灰色で、丁度胡麻粒のやうであります。噛んでプツリと云ふ所も、皮の靭い所も、香ばしい味まで能く似て居ると云ふ話であります、私はまだ試みたことはありませんが、さう云ふ話であります。雌は雄よりも大きい。三日から八九日位の間に卵から蟲に成つて、十六七日で一人前の虱に成るのであります。

衣虱は名の如く衣服の襞や縫目の所などに棲むで居るのでありますが、身の榮養は人の皮膚から採る、而かも一旦噛み付いて血を吸ひ初めると、自分の自體が全く血の袋になつて仕舞はなければ止めませんから、咬傷も強く、其部に蕁麻疹が出來て、ひどく痒い、從つて無闇に爪を以て掻きますから、表皮が剝げ、其處に膿を持ち、それが固まつて瘢痕を殘すことがあります。

次に頭虱は專ら頭の髮毛の生て居る部分を棲家と致しまして、雄は一乃至一・五ミリメートル、雌は二ミリメートル位で、衣虱よりは少しく小さい、身體は比較的圓い、即ち幅が廣くて脚の端に小さな鉤が著いて居ります。色は通常黄色を帶びた褐色のやうな穢い色でありますが、人種に依て虱の色も多少異るさうで、歐羅人の頭の虱は灰白色で、エキスモー人の虱は白いと云ふことであります。

この頭虱は不潔にして居る小學校の子供、殊に女の子供に屢々發見する所でありまして、他の子供に移す、又その卵は固く髮の毛に著いて居りまして、卵の殻が髮の毛をも一緒に續いて著いて居りますからなか〳〵櫛ですいても除けません、而して此卵は一週間位で幼蟲になり、それが一二週間を經ちますと又卵を產みますから、髮の毛が根本から尖まで卵を以て被はれ、丸で白髮かと思ふ程になることがあります。而て此虱は矢張頭の皮膚を咬みまして、非常に痒味を起し、掻きますから濕疹を生じ、それが痂になり、益々不潔になつて參ります。斯樣な事から項部の淋巴腺が腫れて來ることも屢々ありまして、醫師が小兒を診察して、この項部のグリ〳〵から疑を起して始めて虱を發見することも稀でありません。第三に最も厭なものは所謂毛虱であります。これは毛嫌とでも云ふものでありませうか、髮の毛の所にだけは巣はくひませんが、其他は腋窩でも、髯でも、眉毛や睫毛などにまで棲息致します。併しその最も好んで巣くふ所は陰毛の内でありまして、實に厄介なものであります、且つその形は最も小さく

又頭を毛嚢の孔の内に入れて固く著いて居りますので、容易に除くことが出來ない。頭は短くして琵琶の把手の樣で、その腹は膨れて居る、色は黄褐色で光澤がある。これに咬まれることになると、實に不快な掻痒を起して、矢張濕疹を生じ易い。三種中最も惡むべき奴で、市中の錢湯などに行く時には、餘程用心しないと、斯樣なものを頂戴して來ることがあります。

兎に角虱は身體や衣服を不潔にして置けば、適當の宿として其處に棲息繁殖し、又不潔な人の身體や衣服へ移住して殖民地を造るのでありますから、身體及び衣服の清潔は此の場合にも第一の豫防法であります。

頭でも衣服でも虱を發見することがありましたならば、偶然腰掛けや何かゝら人の置いて行つたものを附著けて來たばかりであるか、或は數日前より取附かれたのを知らずに居つて、既に卵を生んだか何うか、能く檢査をして、兎に角怪しい場合には衣服を十分洗濯し下著のやうなものは、重曹水の如きものを以て煮て洗濯をしなければなりません。

頭の虱に對しては石油、ペルバルサムを等分にしたものにオレーフ油を混ぜて能く頭に塗り、朝晩石鹼を用ひて湯で洗ひます。毛虱も矢張同樣の方法で退治が出來ます。又灰白軟膏を擦込むで二三日の後に能く洗ひ落すのであります。但し此等の藥の刺戟に依て却て濕疹を生ずることもありますから、氣を付けなければなりません。藥を用うることになれば、矢張醫師の處方に待つのが安全確實であります。

精神感動の聲に及ぼす影響

激しき精神感動は身體の機能に多少有害の作用を及ぼすものであると云ふことは、遠の昔より知れ渡つて居る所の事實であります、例へば非常に怒を含むで居る時は、如何に隱さうさしても、聲が枯れたや

うな、顔のある、澤のない聲が出る、怨めしい時、悲しい時には、黄色と云はうか、灰色と云はうか、各々色合の變つた音色を表はすものであります。それで歌を謠ふ商賣の人は、日本でも西洋でも晴の坐敷に出るとか、合奏又はオペルに出ると云ふ日には、勤めて總ての精神感動を避けるやうにして氣を靜にして居ると云ふことであります。これはつまり、いよ／＼其場になつて、その日にあつた精神感動が惡影響を及ぼすものであると云ふことを承知して居るからであります。實際非常に腹を立つ時などには、食慾が無くなるのみならず、聲帶の働きも十分でなくなるものであります。甚しい時には全く聲が出なくなることさへある。驚く時は無論の事で、それ火事だ、それ盜賊だと云はうとしても頓には聲が出ない、人に組み敷かれて將に首を搔かれんとする時に方つて、助けてくれとか、人殺しとか叫ける者は、餘程の大膽者に屬する、小膽な人間では全く聲を出さうとしても出ないと云ふことであります。これはつまり、喉頭と云ふものは談話をしたり歌を謠つたりするに大關係のある大切な器管だけに、幽微なる血管や神經を具へて居る所の極めて鋭敏なる樂器である、總じて鋭敏なる機械は、それだけ狂の來易いものであるから、僅かの喜怒哀樂に由ても其機能に變化を來す譯であります。

それで唱歌の先生などは、生徒が唱歌を稽古する時に、直ぐその前に何か腹の立つ事などがあつたのを隱して、平氣を裝ふて練習に取掛つても、直に分かる、而して斯う云ふ場合には唱歌の出來も非常に惡い。概して精神の平衡を失つた時に、それが歌音に認められぬ程、自制力の強い人と云ふものは甚だ稀なものであると云ふことであります。斯う云ふ譯でありますから、唱歌商賣の人でなくとも、人の前で歌を謠ふ、又は稽古をする、特に唱歌の試驗などを受ける時には力めて一切の精神感動を避けるやうにしなければならぬ。

殊に劇しい精神感動は、場合に依つては聲音の上に

隨分容易ならぬ影響を及ぼすものであります。獨逸ドレスデンのムンド、オーベルワルタ教授が、自分の娘さんを例に引いて、次の如き事を話して居ります。

『私の幼女は已に七歳の頃から大分好い、望のあるソプラノ聲を持つて居つた。勿論私もこれを發達させるやうに注意したが、娘も當時已に非常に唱歌を好きであつたゞけ一層養成することに力めた。兎に角フイスからベーまでの高音は頗る調子が好かつた。然るにこの娘が九歳の時に母を失つた。これがひどく精神を攪亂したが、四週間程休むだ後に再び唱歌の稽古を始めた所が、驚くべし、聲の高さはめつきり無くなつたことに氣がついた。音は何ともない。可なり著しい部分的の聲帶麻痺が起つたものと思はれる。中音と低音とは只僅かに侵され、語音には別段變も認められなかつた。斯く不都合な事になつたけれども、我々は唱歌の練習は廢さなかつた、これは、其他の所は健康な若い者に、全然これ限りに高音が失せて仕舞ふとは私は考へられなかつたからである。併しこれには只非常の注意と忍耐に依てのみ失つたものを再び恢復することが出來ると云ふことは直ぐ分かつた。先づ吾々は高音は全く差措いて、唯中音と低音だけを練習した。この兩音は間もなく復び音が充ちて美しくなり、不幸のあつた前よりも更に自由になつて來た。而して高音は、嚴重に攝生を守らしめ、度々喉頭のマッサージを施し、一年程經つてから漸く起つて、それから全身の衞生法を守つて二三年の後に再び高音を得たが、それでもまだ激しい精神感動のあつた前程には樂でなかつた。中音と低音が高音よりも侵され方の少なかつたと云ふ譯は、中、低の位置は、自然の語音に由て元來抵抗力が強くなつて居るからであると說明することが出來る。尙ほ最後に注意して置き度いことは、決して後戻はしなかつたことで、これは私が、高音の恢復について行つた注意と忍耐の功であると思ふ。既に數年來、聲音の高さには再び非難が無くなつた。二三年前に娘が嫁に行つたキヤナダのモント

レールからの音信に依れば、彼は同地に於て現に慈善音樂會の呼物になつて居ると云ふことである。』これは確かに精神感動の聲音に及ぼす影響に關する適例であると思ひます。これに依て喉頭自慢の人は本より、唱歌の一つも歌はうと云ふ人は、少なくともその歌ふ前には精神を穩かにして、總ての精神感動を避けるやうにしなければならぬと云ふことを學び、又聲音の養生、治療に就ても幾分學ぶ所があらうと存じます。

但し非常に注意深い治療教育に依て、一年以上もかゝつて治癒したと云ふことでありますが、これは恐らく今日の聲音操練法、殊に電氣器械的聲音療法と云ふものに依つたならば、遙かに短時日にして其效を得たことであらうと思はれます。

看護法（承前）

三、病人の食餌

病人の食物は、病院に於きましては、醫師の處方に從つて煮炊を致しますから、譯もないことでありますが、然し看護婦としては、誰にでも融通のきくやうに、一般の看護法を學んで置かなければなりません。即ちなるべく滋養分に富んで、なるべく價の廉い品物で病人の食物を調理してやる心得が必要であります。

何を與へやうかと云ふことばかりでなく、又如何に之を與へるかと云ふことが極めて肝要のことであります。

清潔に且うまくさへ拵へれば、隨分安い物でも病人の口に入るものであります。又一方に於ては、うまさうに拵へて與ふる時には、食慾のない病人も食べる氣になり、又食べていけない物を禁じても、他の物で間に合ふやうにすることが出來ます。

衰弱して居つて、他に附添の無い病人では、物を食べる時に手傳つてやらなければならぬ、しかのみならず往々全く小兒を養ふ時のやうにしてやらなけれ

ばならぬ場合もあります。此際倘は親切に言葉を添へて、食物を進めるならば、餘程咽頭の通りも良い譯であります。

起き反つて、自分で食べることの出來る病人であれば、脊に枕をかふとか、或は椅子を顛倒して倚り掛かりの方を前に向けて、病人の背の所に枕を詰めて起き反らせ、又は蒲團を高くして身體を起します。斯樣の場合には、患者の大腿或は腹の上に御膳か御盆を載せて食事をさせ、又は脚の高い机を腹の上に跨がせて其上に食器を置きます。

通常は普通の時間に食事を致させますが、唯衰弱して居る患者、恢復期の者、又一時に澤山食べては宜しくない病人には二時間置位に少しづゝ食べさせます。病人の眠つて居る時には、これを醒まして迄も食べさせる要は餘りないのであります。その必要ある時には、矢張り靜に呼びかけて、暫く經つて與へますけれども、普通強ふべきことではありません。唯精神病者の看護の時は別物で、時々抵抗するのを無理に力づくで以て榮養を取らせなければならぬことがあります、しかのみならず此場合には鼻や口から管を通して、液性の食物を胃の中へ注ぎ込まなければならぬこともあります。

牀に就き切りの病人や、特に熱のある病人などは、澤山食べる必要がないのでありますが、併し此場合には少量で而かも榮養に富んで居る物を與へる工夫をしなければなりません。斯樣の狀態の時には身體は多量の食物を消化することが出來ないのであります。

與へられた食物が幾分剩つたならば、患者はこれを室内に取つて置いてはならぬ、又後で用うるにしても、必ず看護婦に渡すやうにしなければなりません。看護する人の注意すべき事は、病人は時として非常に貪慾になつて、迚も食べられもしない乾枯びた食物の殘りなどを澤山、戸棚や引出の内に隱くして居るやうなことがあることであります。

實際戸棚の隅や、寢牀の下などから種々の食物が發

見されることが屢々あります。これは見舞人が持て來て呉れたものだが、醫師や看護婦から食べてならぬと禁じられて居るものであるから、斯樣な所に隱して置く、而して看護婦の目を盗んで時々食べると云ふやうなことがあつて、これが思はざる害を爲して居ることがあります。尙ほ氣を付けなければならぬことは、我慢のない患者は、何とかゝんとか云ふて、禁じられて居る食物を得やうとすることでありまして、此時可哀想だなどゝ思つて、うつかりそれを與へて大失敗を來すことが間々ありますから、これは斷然退けて、もう少し經てば直に食ても差支ないやうになるから、と云ふやうに慰めて止めなければなりません。

適當の食物及びその分量は、その病氣に依て醫師が定めるものでありますから、委しいことは略して置きます。

近頃は又蛋白質やその他のものを消化し易く且つ澤山含まれて居るやうに製された人工榮養品と云ふものが無數に出來て參りました。而して神經藥とか、消化劑だとか云ふて盛に廣告して坊間に賣捌かれて居りますが、一體斯樣なものは、病人が餘り物を食べられないとか、或はなるべく少しの分量で榮養を間に合はせなければならぬと云ふやうな場合に止むを得ず用うるに過ぎないのでありまして、左樣の場合には確かな品を撰んで、毎日の飲食物の補ひとして與へる、往々患者が氣の付かぬやうに、菓子やビスケツトなどに拵へて與へることもあります。斯樣な物は非常に澤山種類がありますが、先づソマトーゼ、ストローゼ、プラスモン、トロポン、サナトーゲン、ヒギアマ等は比較的善いものと思はれます。又リービヒ氏製劑、殊に肉エキスは大分善いものゝやうに思はれます。ソツプで米や引割を煮たもの、又牛乳などは大概の病氣の場合に差支ないのであります。單に牛乳だけは飲めぬと云ふ病人にはカカオ、茶、コーヒー、或はヒギヤマなどを加へて味を善く致します。

（以下次號）

雜報



○女流敎育家の敍勳

我國民間の女流敎育家にして敍勳を得たるものは嘗てなかりしに、棚橋絢子、三輪田眞佐子兩女史は、本月九日多年女子敎育に從事せし功績の顯著なるを以て何れも勳六等に敍し、寶冠章を賜れり、これ獨り兩女史の光榮のみに非ずして、實に我が女子敎育界、將た一般敎育界の光榮なり。本會は茲に兩女史に向つて謹んで慶賀の意を表す。右の如く棚橋絢子女史、今回敍勳せられしを以て嘗て同女史の訓陶を受けし德川侯爵夫人及、蜂須賀侯爵夫人、日本女子商業學校學監嘉悅孝子氏等四十餘名の發起にて、去月二十日、日本橋倶樂部に於て祝賀會を催せり、會する者三百餘名甚だ盛況を呈したり。

○煙草の需用高

昨四十四年四月會計年度の始より同年十二月末日に至る九ヶ月間の內地用販賣高は五千三百七十八萬五千〇四十一圓、移出用販賣高は六十四萬七千三百五十二圓又輸出用販賣高は四十一萬五千五百十六圓にして此合計五千四百八十四萬七千九百〇六圓の由にて一昨四十三年度に比すれば著しき增加を來したるが、卷煙草中賣行最も良きは常に敷島にして卷煙草賣上總高の約七割五分なりと云ふ、之畢竟需要者の嗜好に適せる爲ならむが或は一般に奢侈に流れたるの徵證ならむか倘四十三年度の同期間との狀況を示せば左の如し

▲內地用販賣高

	本年度	前年度	增△減
卷	一七、一三九、四一七圓	一五、九六六、五九三圓	一、一七二、八二四
刻	三六、二六〇、二八八	三六、六〇四、六四三	△三四四、三五五
其他	三八五、三三六	三六八、六六〇	一六、六七六
計	五三、七八五、〇四一	五二、九三九、八九六	八四五、一四五

▲移出用販賣高

巻	五五四、二八七	四七五、三二六	七九、〇六一
刻	九三、〇六五	九〇、八八〇	二、一八五
計	六四七、三五二	五六六、一〇六	八一、二四六

▲輸出用販賣高

巻	三八四、五二六	五二九、八九二	△一四五、三六六
刻	三〇、九九〇	一一七、九五八	△八六、九六八
計	四一五、五一六	六四七、八五〇	△二三二、三三四
計	五四、八四七、九〇六	五四、一五三、八五二	六九四、〇五七

○盲唖の學齡兒童

最近四十三年の調査に係る學齡兒童中の盲唖者は男五千二百十九人、女四千四百九十六人其内學校にて修業せるもの男四百二十五人、女二百二十七人、合計六百五十二人なるが、最近五ヶ年の模樣にては年年盲唖者の數を減じ就學者多くなり來れりと云ふ。

○低能兒教育調査

東京市にては近時人口の増加に伴ひ、低能兒増加の傾向あるに鑑み、特別の教授法を考究し、或は補助學校を起す等の必要あるを認め、今回市立教員講習所に於て、醫學博士三宅鑛一、文部省視學官服部教一、高等師範學校教授乙竹岩造の三氏を特別調査委員に囑托し、左の綱目に從ふて調査と計劃を企つる方針なりと

一、低能として教育上特別に取扱ふべき兒童の限界
二、同限界を標準として調査したる市内低能兒の實數
三、低能兒の教育に關する方法施設特に歐米の實例
四、本市に適用すべき同上の施設及び方法
五、本市に適用すべき同教員の養成法

○清涼飲料水の需用増加

内務省の調査に依れば本邦に於ける「ラムネ」「サイダ」「シトロン」等所謂清涼飲料水に屬するものゝ需要は近來著しく増加し、明治四十年度に於て其製造高九千五百八萬九千三百六十四本に比し、四十一年度にては一億三千六百八十五萬三千三十三本(四割増)を算するに至り、尚ほ四十二年度には二億四百三十萬六千百七十一本(五割増)四十三年度には二億九千九百七十一萬六千百六十七本(四割五分増)を呈するに至れり、斯く需要の逐年増加せる事實は「アルコール」含有飲料例へば清酒、麥酒其他一般酒類の需要減少したる證反とも見ることを得るを以て

政府は租税收入の支持と有税品保護と云ふ二點より淸涼飲料水に課稅するに至らむとの說あり。

廣告

○婦人衛生會並春季懇親會

同會は去月三十日午後一時半より淺草區向柳原町なる松浦伯爵邸內蓬萊園に於て擧行せられたり。同園は小堀遠州の築けるものゝ由なるが、大きなる泉水の潴、入江岬の趣、一として風雅ならざるはなく、岸には若葉の紅葉照りそへ、櫻の花の散るあたり悠々として舞ひ遊ぶ丹頂の鶴三羽、誠に蓬萊園の面影を偲ばしむるに、池には殘の水鳥人馴れて呼べば寄り來るも可愛ゆく、來會者同伴の子供等にはこよなき友と見えたり、詠歸亭、竹亭等其間に在りて、來賓の休憩に充てられ、兩亭の間左側木瓜花咲く所、天幕を廻らして式場とす。午後一時頃より漸次來會者ありたるが、二時頃に至り總裁東伏見宮妃殿下には伯爵邸に御馬車を寄せさせられ、同家の人々並に婦人衛生會役員は玄關に御迎申上げ本宅階上の池に面せる一間に御休憩各拜謁を賜はり、暫くありて松浦伯爵の御先導にて宮岡御用掛、小野家令、松浦伯爵夫人、副會長濱尾男爵夫人等を從へさせられ、泉水のほとりに折立たせ給ひ岸に沿ふて右廻し、中島に御立寄あり、それより式場に成らせられ、直ちに開會を宣し、會長鍋島侯爵夫人の挨拶に次て幹事高木夫人より簡單に庶務會計の報告ありて總會の式を終へ、懇親會に移れり。其間宮妃殿下には暫時詠歸亭に御休憩あり、再び懇親會場に成らせられ、貞一が手品の餘興を御覽あり、英國大使夫人其他數名の西洋婦人等も頗る興ある樣に見えたるが、右終りて堀川光山の樂燒あり、銘々に或は一輪插、湯呑、德利、盃等に思々の繪を試み、直ちに竈に入れて燒かしめ、美事なる記念の燒物を手土產に散會せるは午後四時半なりき。總裁宮妃殿下にも先に本宅御休憩中樂燒に御親ら壽の一字を認めさせられ、光山に燒かしめ玉ひぬ、因に此度の總會並に懇親會に

つきては松浦伯爵家の好意と松井子爵夫人の懇篤なる斡旋とは深く本會の感謝して措かざる所なり。

○寄附金

金貳拾五圓也		總裁宮妃殿下
金貳圓也	侯爵夫人	鍋島榮子
金五圓也	男爵夫人	濱尾作子
金貳圓五拾錢		岩下ゆか子
同		濱田捨子
同		岡田德子
同		丹波貞子
同		田村きよ子
同		鶴原誠子
同		山本多穗子
同		山口てい子
同		松平芳子
同		宮本樂子
金貳圓也		鳩山春子
同		羽田三緒子
同		片山かめ子
同		高木鐐子
同		守屋千代子

以上

○本會入會者

○三浦敏子紹介

●千葉縣銚子町　特別會員　山口松子

○守屋千代子紹介

●東京市麻布區東町三〇　通常會員　佐藤喜和子

○中橋悦子紹介

●京都市上京區夷川二條　通常會員　條田勝子

●兵庫縣武庫郡須磨村八本松前田家　通常會員　藤田實子

○守屋千代子紹介

●下谷區二長町　通常會員　和田さき子

○事務所申込

●神田駿河臺鈴木町六　特別會員　酒井李喜子

●淺草區千束町二ノ一二七　修身會員　松崎たま子

●大阪府泉北郡鶴田村葦木　賛助員　冠木光惠

●淺草區黑船町十六　特別會員　長田玄美子

●淺草區黑船町十五　特別會員　岩崎テフ子

●千葉縣夷隅郡上野村小羽戸　通常會員　關さく子

●北海道札幌區北三條東二丁目二番地　賛成員　長谷川繁薇

○轉居

●府下大久保百八丁入九へ　本島鏸子

●芝區三田綱町一へ　遠山椿吉

●神田區駿河臺鈴木町一一へ　平山遠子

●赤坂區丹後町一七へ　鶴所誠子

●兵庫縣東須磨月見山下へ　大井上とし子

●山形市香澄町字庚申堂へ　服部さき子

●荏原郡平塚村字戸越七八へ　宇野きみ子

●府下荏原郡大井町字林附三六四へ　玉木とよ子

●牛込區辨天町四へ　柵本よし子

●四谷北伊賀町五へ　後藤わか子

●神戸市下山手通二ノ三一ノ一三へ　植田しげ子

●神奈川縣三浦郡浦郷村字宮ヶ作一九七七へ　杉本濟美子

私立大日本婦人衛生會發行

醫學士 渡邊房吉著

家庭醫學 活ける家

洋裝全一冊
定價七拾錢
送料金八錢

大賣捌
東京市本郷區春木町三丁目卅二番地 南江堂支店
東京市神田區表神保町三番地 東京堂書店

本書は嘗て婦人衛生雜誌第二百十號より第二百四十九號に亙りて連載されたる『活ける家』を取纒め更に修繕改築を經て成れる靈殿なり其宗廟の美百官の富に至ては已に一度會員諸姉の觀覧を經たる所今敢て贅せず、乞ふ一本を座右に備へ更に他に向て推薦せられむことを

本會々員ニ限リ二割引トス

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價
一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三冊（三ケ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二冊（一ケ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料
一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定
○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵劵ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

明治四十五年四月十七日印刷
明治四十五年四月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込追分町二十九番地 菲司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市本町三丁目 丸善書店

五月の卷發行　定價　一册貳拾八錢郵税貳錢五厘　六册前金壹圓七拾錢郵税共

新婦人

奇拔奇警にして寸鐵肺腑を劈く婦人趣味號

繪畫及寫眞版

雷除け　蘂を以て蛇を結べば黑雲渦卷いて雨滂沱たり（油繪極彩色）……川村清雄筆

有明　寢覺の蓐に枕を欹てて美人の香夢未だ覺めず（石版極彩色）……鰭崎英朋筆

溫柔郷　臙脂匂ひ濃かにして情意投合蜜よりも甘し（彩色入）……寫眞

臭趣味（田村俊子）●**役者買**の趣味（邦子）●氣になる**足袋**の裏（巽女）●**白粉の惱**（花外）●**婦人**に對する趣味（草平）●**六尺の男**兒●將た何する者ぞ（末子）●**江戸趣味**の僞金遣（綾子）●鴉こそ**災難**（浪子爵）●薔薇は烈婦（松井）●書生の趣味（良子）●**青蛇**の印象（日向夫人）我には許せ（松の門）其他數十篇……

本誌獨特の大文字　**美人史蹟**

竹田宮**妃**殿下●佛光寺**微妙**淨院尼公●同蓬子の方●安田善三郎氏夫人●岡田博士夫人●**大橋**新太郎氏令嬢文子嬢●小田原銀行頭取令嬢●菊池女醫●京都岡田與吉氏令嬢●京都寺崎課長夫人●新井篤子女史●高崎●女流**劍客**岸倭文子嬢其他如例

卷末附錄　**家庭日誌**　五月分　溫度表晴雨表獻立表來客控●九星略曆添

新婦人**見本**　郵券二錢　賣捌所は全國著名の書林雜誌店

發行所　東京市本郷區龍岡町　振替東京三〇五八番　**聚精堂**　電話下谷一六七二番　電話下谷四〇七九番

婦人新生雑誌第二百六十九號（明治四十五年[illegible]）明治[illegible]